

所沢の自然と農業サークル

活動のあゆみ

(2009 年～)



～ 楽しい仲間と共に、里山を守り、農業を応援しています ～

活動スローガン

いつまでも健康で
楽しみながら「学び」「地域に貢献」することで
充実したセカンドライフを！

活動の三本柱



サークルの運営

定例会：毎月第2木曜 9:00～11:00 新所沢公民館
全員で「年間計画」を策定し、毎月の定例会で「月次計画」を具体化して実行する。
会費は、入会金、年会費共になし。各イベントの費用については参加者負担とする。
詳細は、会則に則り運営



— ログマーク 2020年1月制定 —
「落ち葉を集めて土へ還す」活動をロゴ化しました。
字体をやわらかく、配色をカラフルにすることで
「楽しく学び活動」している様子を表現しました。

目 次

1. サークルの構成		1ページ
2. サークルの発足と活動の基盤づくり		
2-1. サークルの発足経緯と活動基盤の整備		2
2-2. 活動の三本柱の取り組み方針		3
2-3. 活動計画策定の基本方針		4
3. 活動年表(主たる活動と活動期間)		5
4. サークル活動の交流団体関連図		6
5. 活動の歩み		
5-1. 里山の保全と再生活動		7～22
5-2. 所沢の農業活性化活動		23～28
5-3. 健康づくりと親睦		29～36
5-4. ところざわ倶楽部との連携		37
6. 活動のまとめ		38
7. これから(会員の声)		39～47



(写真上:新所沢公民館での定例会風景 写真下:所沢東町 THETA MU でのランチ会風景)

1. サークルの構成

(1) 会員数と構成 (2020 年 6 月現在)

会員数	30名	
会員構成	男性：22名、女性：8名	市民大学修了生：28名、一般：2名

◇加入年毎の会員名簿

加入年	氏名	加入年	氏名	加入年	氏名	加入年	氏名	加入年	氏名
2009	清水仁一	2012	影山 洋	2016	松崎 晃	2017	大舘 徹	2018	千葉 悟
	渡部 昇		稲村洋二		西郡 貢		森 敏雄	2019	吉田文枝
	川口秀子	2014	中原幹男		鴨田孝司		岡崎 裕		浪間芙美子
2011	松澤 正		米山光明	2017	岡崎久子	2018	鯨岡真理		阿部精二
	絹川登美江	2015	井上幸夫		穴井二三徳		中島民恵	2020	佐藤三夫
	佐藤公俊		道江義頼		中村昌彦		大熊和子		川田良太郎

◇会員数の推移：2020 年 6 月現在

30												
25												
20												
15												
10												
5												
年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
会員数	6	9	13	14	13	13	13	16	22	26	29	30
退会者数			1		1	3	2			1		1

(2) 役員

年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
代 表	木島	都築	渡部	高橋	清水	清水	清水	清水	清水	清水	稲村	稲村
副代表	都築	渡部	高橋	松澤	後藤	渡部	渡部	渡部	渡部	井上 穴井	井上 穴井	井上 穴井
会 計	川口	川口	川口	絹川	絹川	松澤	松澤	松澤	佐藤	中村	中村	中村

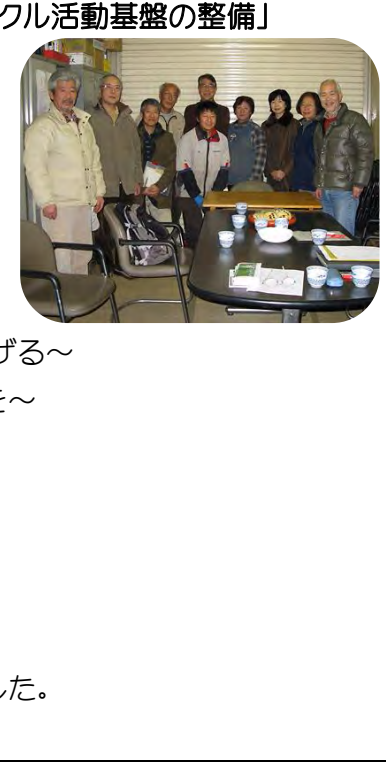
(3) 当サークルでは、サークル本隊の組織と併せて、下記の活動団体を運営/運営参加しています。

会則、会員、会費等、独立した組織ですが、当サークルメンバーが主体で運営しています。

団体名	会員数(サークル会員)	備考
市民大学ファームの会	31名(14名)	東京農工大学実証圃場と連携した農園活動
山田ファーム	33名+1団体(19名)	山田農園、NPO ワーカーズコープと共同運営
柳瀬荘ボランティア	38名(26名)	柳瀬荘の東山整備ボランティア活動

2. サークルの発足と活動の基盤づくり

2-1. サークルの発足経緯と活動基盤の整備

2008年	■サークルの立ち上げと「ところざわ倶楽部」への入会 市民大学15期の2年次に選択した「環境倫理講座（講師：東京大学大学院教授 鬼頭秀一先生）」の修了生6名でグループワークの提言を实践する為「里山を現代に活かし、未来につなげる」を活動テーマとして「地域の自然と農業を考える会」を立ち上げ「ところざわ倶楽部」に入会しました。	
2009年	■サークルの活動方針・取り組みの模索 市民大学では、三富地域に特化したグループワークであった為、活動初年度に当たっては「所沢全般の自然と農業」の実態について幅広く学びながら、活動テーマである里山の保全活動の取り組みを模索することにしました。 (1) 里山保全の現状行政の係わりを理解する為 ① 景観まちづくり計画策定のための「所沢市景観市民会議」に代表2名が参加。 ② 出前講座受講…所沢市みどり自然課、埼玉県農林振興センター三富担当部 (2) 里山保全作業及び、循環型農業の知識を習得する為 ① 市民大学講師の鬼頭先生、江戸農法の会の皆さん等が活動している下富の横山農園を主たる活動拠点として実践活動をスタートしました。 ② 循環型農業を実践している所沢市陽子ファーム、中富の長谷川農園、下富関谷農園、三芳町伊東農園の落ち葉掃きを手伝いながら農業と平地林保全について学びました。 (3) 雑木林、湿地、河川の環境保全団体の活動に参加して、環境保全に対する思いや知識を得ると共に、各団体の運営を学ぶ為に交流を開始しました。 （おおたかの森トラスト、早稲田大学B地区湿地保全活動、砂川流域ネットワーク） (4) ところざわ倶楽部内で関連するテーマに取り組んでいる「地域の自然を考える会」「地域の自然他サークル」との交流を図りました。	
2010年	■市民大学16期「日本の農業講座」メンバーとの合流と「サークル活動基盤の整備」 市民大学16期の「日本の農業講座」のメンバーから、修了後に当サークルに加入したいとの申し入れがあり、当サークルもメンバーの拡大を目指していた為、お互いの意見交換、交流を経て、下記の内容で合意し、現在のサークルの活動基盤が整備されました。 【活動の三本柱と取り組み方針】 ① 「里山の保全・再生」 ～里山を現代に活かし・未来に繋げる～ ② 「所沢の農業の活性化」 ～所沢にスーパーアグリパークを～ ③ 「健康づくりと親睦」 ～健康づくりと学びの継続～ 【活動スローガン】 いつまでも健康で、楽しみながら、 「学び」「地域に貢献」することで充実したセカンドライフを！ 【サークル名の改称】 サークル名を現在の「所沢の自然と農業サークル」に改称しました。	

2-2. 活動の三本柱の取り組み方針

市民大学での学びと活動方針の論議の中で、活動の原点を下記の内容で整理し共有しました。

※部分的には継続的に、追加修正して来ています。

里山の保全と再生活動の課題と取り組み	～里山を現代に活かし・未来に繋げる～
里山は、美しい自然景観だけでなく、地球温暖化対策、生物多様性等、多くの機能を有し、人の経済活動と生態系を長期的に守ることが期待できます。 特に、東日本大震災以降は防災機能としても注目され、更に、自然教育・学習体験の場、レクリエーション・リフレッシュ面等からも活用が期待されています。 里山の「保全・再生」には、行政・農家・地域住民が「協働」で取り組む必要があります。 私たちは「協働」の促進を目指して「地域への啓発活動」「里山の手入れ実践活動」に取り組んでいます。	
所沢の農業活性化活動の課題と取り組み	～所沢にスーパーアグリパークを/地産地消の促進～
所沢市は、高品質な露地野菜の一大産地ですが、農業には経済面、後継者、相続税問題等課題も多くあります。 安定的で持続的な農業経営のためには、より付加価値の高い農産物生産と販売戦略が必要です。 また、消費者は、安全で安心できる農産物を求めており、更に環境に配慮した農業が期待されています。 私たちは、所沢市民、消費者として地域の農業を活性化し、安全で安心できる美味しい農産物の生産・流通を応援するため、「地産地消の促進活動」「所沢市/東京農工大学連携協定プロジェクトの応援」等に取り組んでいます。	
健康づくりと親睦活動の課題と取り組み	～健康づくりと学びの継続～
セカンドライフを充実させるためには、何よりも健康であること、そして一緒に活動する仲間が必要です。 私たちは、いつまでも健康で、楽しみながら「学び」「地域に貢献」することで充実したセカンドライフを！を合言葉に健康を維持し、仲間との親睦を図りながら諸活動に取り組んでいます。	

2-3. 活動計画策定の基本方針

2011 年以降の活動計画策定は、サークル結成時の思いを反映し、活動目的を共有化する為に、下記の構成(活動テーマ&活動区分)を基本として計画して来ました。

年度末に全員で次年度の「年間計画」を策定し、定例会で「月次計画」を具体化し実践して来ました。

活動テーマ	活動区分	主な取り組み事例
里山の保全	行政・地域住民に対する啓発活動 ※里山の保全には、行政・地権者(農家)・地域住民を巻き込んだ「協働」による取り組みが必要。	三富アライアンス活動 (産官学民協働の団体活動)
		落ち葉掃き体験会の開催
		景観市民活動クラブ活動 (事務局:所沢市都市計画課)
	実践活動 行政、他団体との連携 ※連携により地域貢献と成果につなげる	
		・埼玉県みどり自然課 ・埼玉県川越農林振興センター
		・所沢市みどり自然課
		・所沢市農業振興課
		・所沢市都市計画課
		・NPO 埼玉森林サポーターズクラブ
		・トトロのふるさと基金
		・東京国立博物館
		くぬぎ山の保全・再生活動
		みどりのパートナー活動
		陽子ファーム落ち葉掃き体験会の共催
		景観まちづくり活動
		伊東農園落ち葉掃き体験会共催
		トトロの森 21 号地保全活動
所沢の農業活性化	循環型農業実践農家の支援(落ち葉掃き等) ※平地林を守るには循環型農業継承が必要	柳瀬荘黄林閣東山散策路整備活動
		城陽子ファーム、中富長谷川農園、中富森田農園、三芳町伊東農園、他
	環境保全活動団体との交流 ※広範囲での環境保全活動の体験と各団体の運営を学び、交流を深める	早稲田大学湿地保全活動(WAVOC)
		砂川流域ネットワーク
		くぬぎ山地区自然再生協議会
		おおたかの森トラスト、等
		山口峯岸農園(corot 立ち上げ等)
		下富関谷農園(イベント支援等)
	「地産地消」の促進	「ところ産食プロジェクト」支援
		地産地消促進公開講演会の開催
	所沢市と東京農工大学包括連携協定による「プロジェクト」の支援	里芋実証園 PJT 支援
		養蚕農家支援 PJT (小暮農園)
	休耕地の有効活用 & 野菜づくりと仲間との親睦 ※市民の農に親しむ場づくりのモデルケース	市民大学ファーム活動
		山田ファーム活動
健康づくりと親睦	健康づくり	りんご農家ボランティア & 観光
		ハイキング、花見散策など
		食事会、新年会、忘年会など
	学びの継続	講演会の開催、研修会等への参加
		行政、大学の市民講座への参加

3. 活動年表(主たる活動と活動期間)

活動	年度	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	
里山の保全・再生活動													
下富の平地林保全活動		→											
三富アライアンス活動		→					農と里山シンポジウム・三富千人くず(落ち葉)掃き						
みどりのパートナー活動						→			--- 休止 --- →				
駒が原の森保全活動						★団体登録			★団体登録取り下げ				
くぬぎ山の保全活動					→								
		くぬぎ山地区自然再生協議会主催の保全活動に団体参加											
トトロの森保全活動		トトロのふるさと基金の 21 号地での活動(みどりのパートナー活動対象区域)											→
農家の落ち葉掃き支援 & 落ち葉掃き体験会の開催		→					→						
		(サークル単独での農家の支援)					(サークルとして一般市民対象の体験会を開催)						
景観市民活動クラブ	★市民会議	→											
柳瀬荘東山整備活動											→		
トトロの森の保全活動											→		
研修会開催、参加		3回	2回	3回	2回	5回	3回	2回	1回	0回	1回	1回	
環境保全活動団体との交流													
早稲田湿地保全活動		→											
砂川流域ネットワーク		→											
おおたかの森トラスト		→											
ふるさと公園応援隊											→		
所沢の農業活性化活動													
農業研修		→											
農業後継者支援		→					→						
三富研究会		→											
ところ産食 PJT 支援						→							
所沢市と東京農工大学包括連携協定 PJT の支援						→							
(市民大学ファーム活動)						→							
(山田ファーム活動)										→			
研修会開催、参加		1回	2回	0回	1回	0回	0回	3回	1回	3回	2回	0回	
健康づくりと親睦活動													
ハイキング、花見散策		2回	4回	3回	3回	1回	1回	2回	1回	2回	2回	2回	
りんご農家ボランティア活動							→						
市民大学ファーム活動							→						
山田ファーム活動										→			
学びの継続		→											
活動	年度	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	
		第一期				第二期				第三期			
		創成期 幅広い活動		農業関連活動の充実 市大ファーム他				里山保全活動再構築 トトロの森保全活動他					

4. サークル活動の交流団体関連図

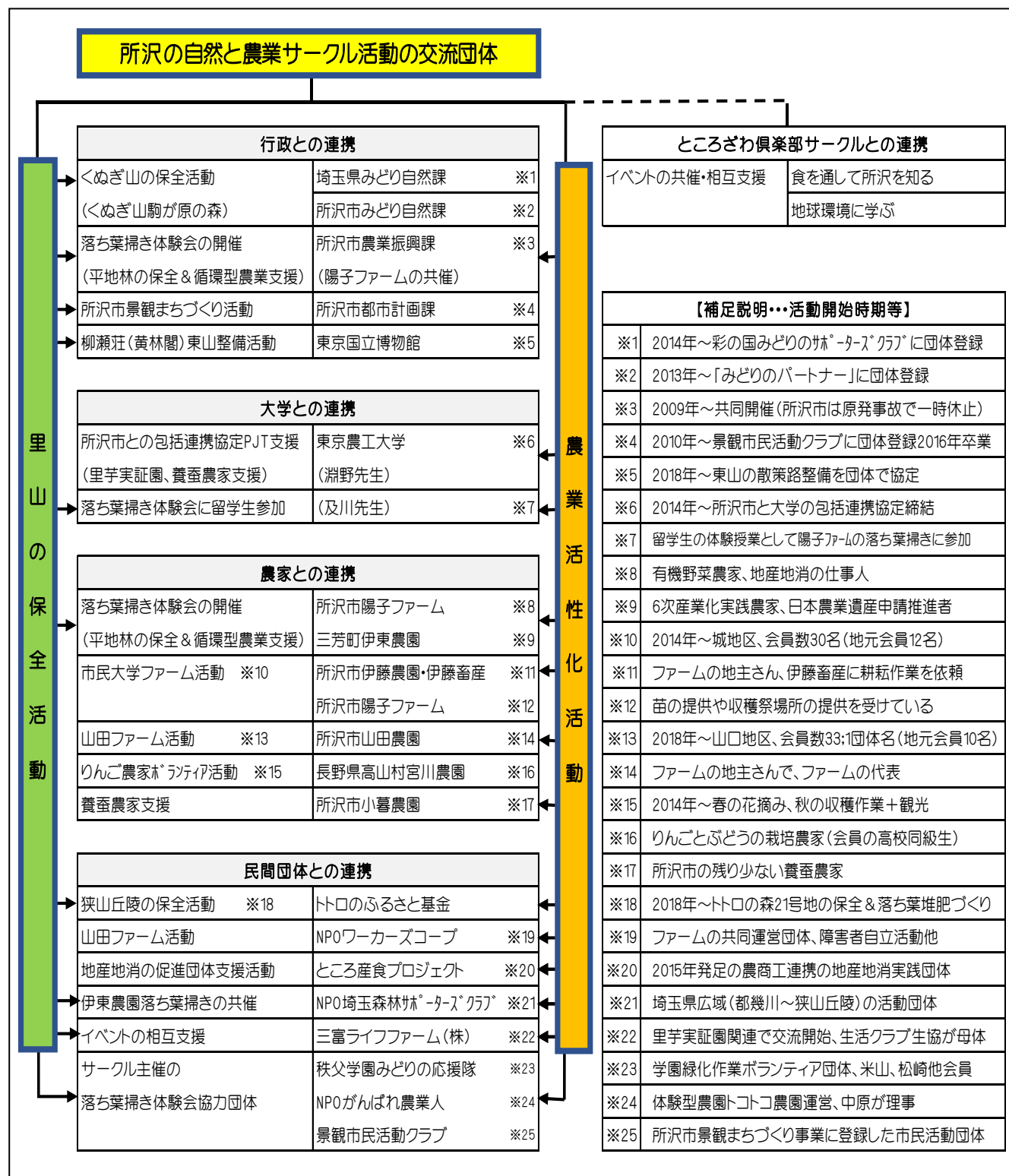
サークル活動の運営方針として下記の3点について心掛けて来ました。

①行政・農家・地域住民の「協働」

②産官学民の「協働」

③他団体との「交流と連携」

現在まで多くの協働、連携、交流を図って来た結果、大きな財産となり、成果と活動範囲の拡大に繋がったと思います。



5. 活動の歩み

5-1. 里山の保全・再生活動

里山の保全と再生活動の課題と取り組み ～里山を現代に活かし・未来に繋げる～
里山は、美しい自然景観だけでなく、地球温暖化対策、生物多様性等、多くの機能を有し、人の経済活動と生態系を長期的に守ることが期待できます。 特に、東日本大震災以降は防災機能としても注目され、更に、自然教育・学習体験の場、レクリエーション・リフレッシュ面等からも活用が期待されています。 里山の「保全・再生」には、行政・農家・地域住民が「協働」で取り組む必要があります。 ■ 私たちは「協働」の促進を目指して「地域への啓発活動」「里山の手入れ実践活動」に取り組んでいます。



手入れされた平地林

活動 \ 年度	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
里山の保全・再生活動											
下富の平地林保全活動	→	→	→	→	→						
三富アライアンス活動		→	→	→	→	農と里山シンポジウム・三富千人くず(落ち葉)掃き					
みどりのパートナー活動					→	→	→	→	→	→	→
駒が原の森保全活動					★団体登録			★団体登録取り下げ			
くぬぎ山の保全活動				→	→	→	→	→	→	→	→
	くぬぎ山地区自然再生協議会主催の保全活動に団体参加										
トトロの森保全活動	トトロのふるさと基金の21号地での活動(みどりのパートナー活動対象区域)										→
農家の落ち葉掃き支援 & 落ち葉掃き体験会の開催	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	(サークル単独での農家の支援)				(サークルとして一般市民対象の体験会を開催)						
景観市民活動クラブ			→	→	→	→	→	→	→	→	→
柳瀬荘東山整備活動										→	→
トトロの森の保全活動										→	→
研修会開催、参加	3回	2回	3回	2回	5回	3回	2回	1回	0回	1回	1回
環境保全活動団体との交流	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	(早稲田湿地保全活動 WAVOC、砂川流域ネットワーク、おおたかの森トラスト)										

【里山の四季】



新 緑



木漏れ日



落ち葉の恵み



春を待つ

■2009 年～2013 年 3 月 下富の平地林保全活動

里山の保全作業及び、循環型農業の知識を習得する為、市民大学講師の鬼頭先生、江戸農法の会などの皆さんと行政が協働で活動している下富の横山農園周辺を主たる活動拠点として丸 4 年間活動しました。

※現在のサークル帽子は、共同活動していた埼玉県みどり自然課から提供されたのが始まりです。

◇「定常作業」として、枯れ木や常緑樹の伐採・処分、コナラの植樹、落ち葉掃き等、年間を通して作業を行いました。



◇雑木林での「イベントの支援作業」として、志木中学校の落ち葉掃き体験会や企業の社会貢献事業及び、里山ツアーの一環としての雑木林の手入れ作業等の対応も行いました。



◇又、毎年、生活クラブ生協埼玉と共催で落ち葉掃き参加者を招いての「三富新緑を愛でる会」は、楽しいイベントで行政や色々な団体・個人との交流を広げる良い機会にもなりました。



2013 年 2 月に「三富アライアンス活動」の卒業と併せて活動を卒業しました。

4 年間の活動で行政や団体、個人との交流の輪が広がると共に、サークルの実力が付き、実績が多方面で評価されて、以降の活動展開に大きく寄与することに繋がりました。

■2010 年 里山保全の「産官学民」協働活動スタートと「三富アライアンス」の立ち上げ

下富横山農園を拠点とした里山保全活動に参加していた団体、個人の仲間により「三富地域と呼ばれる地域の環境・生物多様性の維持を図りながらも、地域の比較優位性を保持すること」その為に、「住民によるボランティア活動の組織的展開、地域の比較優位性の国内外への展開、次世代人材の育成、調査・研究と提言」を目的として、「産官学民で協働活動」を推進することになり、最初のイベントとして第 1 回「農」と里山シンポジウムを開催しました。



2011年に、シンポジウム実行委員会をベースに活動団体「三富アライアンス」を立ち上げに参画し「農と里山シンポジウム」や「三富地域・千人落ち葉掃き大会」開催の実行委員として活動しました。

又、三富地域の活性化を目的に国内 NO.1 の総合建設コンサルタントの日本工営を事務局に、「三富研究会」を発足させ、農業強化、多角化/6 次産業化、土地活用/市民農園の WG 研究にも取り組みました。

<組織>

会長 鬼頭秀一（東京大学大学院 新領域創成科学研究科）
幹事 堀内一（東京国際大学、三富地域農業振興協議会委員）
清水仁一（ところざわ倶楽部副会長:所沢市民大学修了者の会）

メンバー

大堀 聡（早稲田大学 自然環境調査室 調査主任・講師）
横山 進（三富江戸農法の会代表、三富地域農業振興協議会委員）
横山一朗（東京国際大学 副学長）
中西博之（農業ジャーナリスト）、藤原勇彦（環境ジャーナリスト、日本の里100選編集者）



活動目的

「三富地域」の環境と生物多様性の維持を目的としながら、すでに存在する諸団体・諸活動（個人活動を含む）を「連携させるハブ」としての役割を果たすことにある。

活動内容

- ◇農と里山シンポジウムの開催…第 1 回所沢市、第 2 回三芳町、第 3 回は川越市で開催
- ◇三富千人くず掃き（落ち葉掃き）の開催…第 1 回、第 2 回共、所沢市下富横山農園周辺を主会場として開催。
- ◇三富研究会の取り組み…毎月 1 回、日本工営の四谷本社にて開催。

※国内 NO.1 の総合建設コンサルタントの日本工営を事務局に、農業強化、多角化/6 次産業化、土地活用/市民農園の WG を作り、研究を進める。

「産官学民」の共同活動体で、色々な専門家も交えた高度で影響力のある活動でサークルの実力、評価も上がり、貴重な活動であったが、雑木林の手入れや落ち葉掃き大会の準備作業などは、当サークルが一手に引き受けていたため、サークル会員の体力面で厳しくなり、併せて拠点としていた横山農園との活動方針の違いも顕在化し、2013 年の第 2 回落ち葉掃き大会を以て活動を卒業しました。

■2010年～2013年 「農」と里山シンポジウムの開催(三富アライアンス活動)

三富アライアンス活動の主要活動としてシンポジウムを開催しました。

＜シンポジウム開催の趣旨文の一部＞

三富(さんとめ)の平地林は、まさに、「三富(さんとめ)」の循環型農業と密接に関連し、持続可能な社会の構築とともに、高い生物多様性を維持されてきたのです。三富(さんとめ)の里山は、「SATOYAMA initiative」の典型的なあり方を示しています。

名古屋でCOP10が開かれる直前の9月に、私たちは、この三富(さんとめ)の里山の生物多様性の保全は、三富(さんとめ)の循環型農業と密接に連携していることを再認識し、平地林の保全と循環型農業の推進と、市民や企業との地域連携による、持続可能な地域社会を、ここでいかに築いていくべきか、議論したいと思います。多くの方々がこの趣旨に賛同し、参加していただけることを心より祈っております。



※当サークルの役割は、実行委員団体として全体の企画・運営及び、参加者の募集は勿論のこと、当日のサークル活動展示、受付＆案内、安全、広報、野菜や植木の配布なども担当しました。

第1回	2010年9月18日(土) 於)所沢市民文化センター MUSE ホール
主催者挨拶	斉藤 満(三富地域農業振興協議会 会長)
来賓・挨拶	埼玉県副知事 塩川 修
基調講演	「里山の生物多様性と人の営み」大堀 聡(早稲田大学 自然環境調査室調査主任)
パネル討論	「農」と里山シンポジウム - 三富(さんとめ)を未来に - ・コーディネーター: 鬼頭 秀一(東京大学大学院 新領域創成科学研究科 教授) ・パネラー:ダンカン(タレント・俳優)、堀内 一(東京国際大学 商学部 教授) 大堀 聡(早稲田大学 自然環境調査室 調査主任・講師) 横山 進(三富江戸農法の会代表) 小宮忠義(元国際協力機構専門家)
閉会の辞	田尻 嗣夫(東京国際大学 学長)



※NHK ニュースで放映されました。

第 2 回	2012 年 1 月 28 日(土) 於)淑徳大学埼玉みずほ台キャンパス
主催者挨拶	斉藤 満(三富地域農業振興協議会 会長)
来賓・挨拶	広畑 義久 氏 (埼玉県副知事) 伊藤忠治(淑徳大学国際コミュニケーション学部教授)
基調講演	農あってこそその都市社会 進士五十八氏(前東京農業大学学長)
パネル討論	・コーディネーター: 鬼頭 秀一(東京大学大学院 新領域創成科学研究科 教授) ・パネラー:進士五十八氏(前東京農業大学学長) 大竹道繁(江戸東京・伝統野菜研究所代表)、林伊佐雄(三芳町長)
活動報告	「三富アライアンス」活動報告 堀内一(三富アライアンス幹事)
閉会の辞	仲 昭年 (埼玉県川越農林振興センター 所長)



第 3 回	2013 年 1 月 20 日(日) 於)川越南文化会館ジョイフル
開会挨拶	斉藤 満(三富地域農業振興協議会 会長)
来賓挨拶	広畑 義久 氏 (埼玉県副知事)
基調講演	「いのちとくらしを支える都市農業」 後藤 光蔵 氏 (武蔵大学教授)
パネル討論	いのちとくらしを支える都市農業・都市近郊農業 ・コーディネーター:後藤光蔵 氏(武蔵大学教授) ・パネラー:大木 清志 氏(川越市 農家経営)、竹ノ谷昭彦 氏 (JA営農部長) 菊一敦子 氏 (生活クラブ生協埼玉 理事)
閉会の辞	仲 昭年 (埼玉県川越農林振興センター 所長)



※第 2 回、第 3 回のシンポジウムの大型ポスター用写真は、清水の作品を使いました。

2013 年の第3回シンポジウムの開催を以て活動を卒業しました。

※本活動は、現在も継続開催されています。(2019年9月に「第 10 回シンポジウム」三芳町で開催

■2011年～2013年2月 「三富千人くず(落ち葉)掃き」を開催(三富アライアンス活動)

武蔵野の三富地域で古くから行われている循環型農業の理解を深め、みどり豊かな地域を守り育てる活動の一環として、三富地域農業振興協議会と連携して川越市・所沢市・狭山市・三芳町にまたがる「くぬぎ山地区」の雑木林を会場に大規模な「三富千人くず(落ち葉)掃き」を開催しました。

後援: 三富地域農業振興協議会

協力: 埼玉県、所沢市、川越市、ふじみ野市、狭山市、三芳町

主会場: 下富横山農園と周辺地区、主賓: 埼玉県広畑副知事



◇主会場では、同時に雑木林での日本写真家協会と共同開催の「里山写真展」と、昼食後の休憩時に、早稲田大学の堀先生による「雑木林大学講座」と称したミニ講演会も行いました。

※当サークルは、主会場の開催の実行委員として企画と当日運営に参加。又、参加者の募集の他、落ち葉掃きの準備として下草刈りや、当日の参加者への落ち葉掃き作業の指導、飲食の準備等も担当。



大堀先生による雑木林大学講座



日本写真家協会とコラボした「富の里山写真展」



主催者メンバー



埼玉県広畑副知事



※2012年の第2回落ち葉掃きは、東日本大震災の放射能汚染問題で中止としました。

次回に備え川越農林振興センターと共同で落ち葉掃き現場の放射線量を測定し安全確認をしました
2013年の第2回落ち葉掃きをもって活動を卒業しました。

※本活動は、現在も継続開催されています。(2019年12月に「第9回三富千人くず(落ち葉)掃き」開催

■2011年～2017年 くぬぎ山地区の保全再生活動

くぬぎ山地区の再生事業(埼玉県 HP より)

くぬぎ山地区は、埼玉県南部、首都圏 30km 圏に位置する大規模な平地林で、川越市、所沢市、狭山市、三芳町にまたがる約 152ha の区域です。平地林の減少が続くなか、くぬぎ山地区周辺は、武蔵野の面影を残す一団の平地林が残る重要な地域となっています。

・緑地保全のための取組は、現在、県と地元 3 市 1 町では、都市近郊に残された貴重な緑地空間であるくぬぎ山地区の緑地を保全し、未来の世代に引き継ぐため、保全等を進めています。

・くぬぎ山地区自然再生協議会は、くぬぎ山地区について、その歴史的・文化的・環境的価値を継承することを目的として、自然再生推進法(平成 14 年法律第 148 号)に基づいて設置されたものです。協議会では行政、地域住民、専門家、NPO 等が参加し、自然再生の目的や役割分担などをまとめた「自然再生全体構想」を作成するとともに、実施計画の案について協議を行います。

◇サークルでは、2009 年に所沢市みどり自然課の出前講座で協議会の存在を知り、協議会の傍聴もしました。サークルとしては国としての保全再生事業として「近郊緑地保全区域指定」の実現を期待していましたが中々進んでいないのが実態でした。

くぬぎ山地区自然再生協議会運営事務局の埼玉県みどり自然課から、保全活動への参加を参加を要請され、保全現場の手助けになればと 2011 年からサークルとしての取り組みを開始しました。



◇保全活動は、毎年、9 月と 12 月頃の 2 回、保全活動が行われており、作業内容は、9 月はクズや外来植物の除去と松の植樹、12 月は古木の処理、植樹した松の木周辺の手入れなどを行いました。

毎回、中学生や子どもたちを含め 100 名程度参加する大きなイベントです。

実作業は、おおたかの森トラストが仕切っており、休憩時等に足立会長から協議会への参加登録を行う様、何回も誘われました。



■2013年4月～ 所沢市「みどりのパートナー活動」の取り組みスタート

三富アライアンス活動卒業後、サークルの会員数、体力面を考慮し乍ら、今迄の経験を活かした活動を検討し里山保全・再生活動の「実践活動」として、所沢市で新たに展開した「みどりのパートナー活動」の情報を得て説明会に参加しサークルとして検討結果、団体登録を行いました。

活動拠点は、「くぬぎ山・駒ヶ原の森」の2区画約 12000 m²として、「一般市民を巻き込んだ保全活動体験場」として里山保全の啓発活動に活用する活動計画を策定し、所沢市みどり自然課に提出しました。



◇実活動スタートの準備

活動のスタートに当たり、「みどりのパートナー登録団体」対象の研修会への参加と併せて、サークルとして、各地の活動団体の情報収集と実際の活動見学＆意見交換会を計画しました。

<境山野緑地(独歩の森)保全活動の見学>

みどりのパートナー活動を始めるに当り、武蔵野市の「境山野緑地(独歩の森)」保全活動を見学しました。田中会長(日本女子大教授、以前、所沢市若狭に在住)の案内で武蔵野の植生を維持している森(約0.4.ha)の保全活動を見学しました。

新しい森の木々は「おおたかの森」より移植したとのことでした。

子どもたちも対象に各種のイベント、素晴らしい保全活動に感心しました。

※見学後、武蔵境の喫茶店で楽しい意見交換が出来ました。



◇活動の停滞と代替活動への転換

所沢市の駒が原の森の植生の調査、保全形態などを含めた「保全管理計画」の策定に時間を要し、実活動が中々スタート出来ませんでした。

この為、代替活動として、従来より活動していた「くぬぎ山地区自然再生協議会の保全活動」に継続参加し、作業場所を駒が原の森地区で行うことにしました。

※2016年3月に、所沢市から「くぬぎ山・駒ヶ原の森の保全管理計画」が発行され、保全管理方針で活動場所が「コナラ林管理ゾーン(低林、アカマツ混在型)」に設定され、みどり自然課に確認した結果、当サークルの活動方針である「一般市民を巻き込んだ保全活動体験場」の実現は困難となり、駒ヶ原の森保全活動の団体登録を取り下げ、以降、活動は休止状態となっています。



※今年3月、稲村代表、井上、穴井両副代表と共に、登録しているサークル代表者の変更届の確認と併せて、みどり自然課を訪問し、みどりのパートナー活動の現状を説明して貰い、現在の「トトコの森21号の保全活動」も、みどりのパートナー活動の対象であり、申請して頂ければ補助金の給付も可能との話がありました。(サークルとしての対処を検討中)

■2009 年～2013 年 循環型農業実践農家の落ち葉掃き支援活動

平地林を保存するためには、落ち葉堆肥を使った循環型農業を継承する必要があるため、循環型農業実践農家の落ち葉掃きのお手伝いをしながら農業と平地林について学ぶ活動として開始しました。

<城 陽子ファーム>

<中富 長谷川農園>

<下富 関谷農園>

<三芳町 伊東農園>



年度	落ち葉掃き実施農家(参加者数)
2009 年～2010 年	城陽子ファーム、下富横山農園、下富関谷農園、中富森田農園
2011 年～2012 年	城陽子ファーム、下富横山農園、下富関谷農園、中富長谷川農園、三芳町伊東農園
2013 年	城陽子ファーム、下富横山農園、三芳町伊東農園

※陽子ファーム活動では木島が朝日新聞に掲載され、清水のインタビューはテレビ埼玉で放映されました。

■2014 年～ 「落ち葉掃き体験会」の開催に転換

三富アライアンス活動の卒業に伴い、サークルの会員数、体力面を考慮し乍ら、今迄の経験を活かした活動を検討し「里山保全の啓発活動」として一般市民を巻き込んだ「落ち葉掃き体験会」の開催に取り組むことにしました。

開催場所は、以前から循環型農業農家の支援活動として落ち葉掃きのお手伝いをしていた所沢市城の陽子ファーム及び、三芳町の伊東農園にお願いしました。

※陽子ファームは、所沢市農業振興課と共催、伊東農園は、NPO 埼玉森林サポーターズクラブと共催の形とし、熊手の手当てや駐車場の確保及び、参加者数の確保等の負担軽減を図りました。

2014 年	陽子ファーム(23 名参加)	2017 年	陽子ファーム(55 名)、伊東農園(25 名参加)
2015 年	陽子ファーム(22 名参加)	2018 年	陽子ファーム(54 名)、伊東農園(24 名参加)
2016 年	陽子ファーム(44 名参加)	2019 年	陽子ファーム(68 名)、伊東農園(37 名参加)



※上段は陽子ファーム、下段は伊東農園のスナップです。伊東農園では「さつま芋の苗床」にも落ち葉を使っています

■2010 年～2015 年 所沢市「景観市民活動クラブ」の立ち上げに参画

2009年に所沢市景観条例策定の為の「景観市民会議」が開催され代表として渡部と清水の2名が参加しました。

2011年に所沢市景観条例が制定され所沢市都市計画課を事務局とした景観まちづくりの市民推進団体「所沢市景観市民活動クラブ」の立ち上げに参画しました。



◇立ち上げ参加団体は6団体(当サークル、とことこガーデン、所沢市造園建設業協会、古民家付き農園 corot、柳瀬川をきれいにする会、株式会社 C-プロジェクト)

◇活動内容は、地域への啓発活動としての活動展示(市民フェスティバル、市役所ロビー)、景観市民活動フォーラム・景観ツアーの開催、景観新聞の発行等。



◇活動展示は、当初は、航空記念公園での市民フェスティバルにテントで出展していたが、2014年より市役所1階の市民ロビーでの展示に切り替え、春と冬の年2回の開催として充実化を図りました。

又、砂川流域ネットワーク、グリーン・フォレスト・ネットワーク所沢、いきものふれあいセンター等にも声掛けして「狭山丘陵、川、平地林」の景観と保全活動の紹介コーナーを企画し好評でした。

◇子どもたちと並木保育園児の「どんぐりストラップづくり体験会」も開催しました。

尚、活動展示会会場で配布したブルーベリー、オリーブの苗木は、当サークルが埼玉県みどり自然課において無償で提供して貰いました。又、川越農林振興センターからは、三富新田のジオラマ、くぬぎ山の木工品展示やどんぐりストラップの器材の提供をして貰いました。



◇三富新田の景観バスツアーやお茶づくり体験&狭山丘陵散策ツアー等も開催しました。



5年間の活動で当初目的の「里山保全と再生」の情報発信の役割を果たすことも出来たと判断し、2015年冬の活動展示会を以て活動を卒業することにしました。

■2017 年 里山保全活動の再構築

里山の保全活動は、三富アライアンス活動を卒業した後のメインの取り組みであった「くぬぎ山・駒ヶ原の森を拠点としたみどりのパートナー活動計画」が、所沢市の保全管理方針と合わずスタート出来ず休止状態となったまま、代替活動の「くぬぎ山地区自然再生協議会開催の保全活動」に参加して来ていましたが、会員から100名からの参加者の中に混ざっての作業であり、活動内容もサークルとしての主体性が乏しく達成感が今一との意見があり、サークルとしての主体性ある里山の保全活動の再構築を図ることにしました。

◇「所沢市カルチャーパーク」雑木林の保全活動に体験参加

2018 年に、市民大学 0B がメンバーの「ふるさと公園応援隊」が行っている「所沢市カルチャーパーク」の雑木林保全活動に体験参加し、活動の方向性等を見定めることとしました。

※約半年間体験した結果、活動の成果が目に見える事や所沢市との連携が良く取れていることなど学ぶ点が多かったが、同じ場所での活動展開は、ふるさと公園応援隊活動との共同活動的になってしまう為、諦めて他を模索することとしました。



◇2018 年10月～ 柳瀬荘(黄林閣)東山散策路の整備活動への取り組み開始

2018 年 6 月、サークル会員の道江が参加している柳瀬郷土史研究会による「黄林閣かまど焚き」見学会に稲村、中原が参加した際、管理人の針生清美さんから、柳瀬荘内の屋敷林散策路をボランティアの力で整備・復活したいとの希望を聞きました。

そこで、早速、我がサークルに提案し、7 月に見学会を実施、取り組みを決定しました。

管理主体の東京国立博物館でもこの提案が承認され、10 月 23 日に第 1 回整備活動を開始しました。



◇2019 年 1 月～ トロロの森21号地の保全活動への取り組み開始

里山保全活動と併せて、有機(肥料)無農薬栽培を指向している山田ファームで使う落ち葉堆肥の確保も可能な場所として狭山丘陵の保全活動を検討した結果、2019 年 1 月に管理団体の「トロロのふるさと基金」の委嘱を受けて「トロロの森21号地」の保全活動の取り組みを開始しました。

※所沢市の「みどりのパートナー活動」の活動対象区域で有り、団体登録を勧められておりサークルとして検討中。



■2018 年～ 柳瀬荘(黄林閣)東山散策路の整備活動

柳瀬荘を所蔵している東京国立博物館は、荘内の屋敷林散策路をボランティアの力で整備・復活したいとの希望があり、里山保全活動を模索中の当サークルとの思惑が一致し、2018 年 9 月に東京国立博物館とボランティア活動に対する覚書を締結。

10 月 23 日に第 1 回の整備活動を開始しました。

柳瀬荘(黄林閣)の紹介

松永安左エ門氏(耳庵)の旧別荘です。

昭和 23 年(1948)3 月、東京博物館に寄贈され、その後諸施設の補修や整備が図られつつ現在に至っています。

住所は所沢市坂の下 431、敷地面積は 17,235 平方メートル。

江戸時代・天保期の民家の特色をよく示すものとして重要文化財に指定されている「黄林閣(おうりんかく)」、書院造りの「斜月亭」と茶室の「久木庵」などが残されています。

当館の庭園にある茶室春草廬(しゅんそうろ)も、もとはこの柳瀬山荘にあったものです。

毎週木曜日、外観のみ無料で公開しています。

また 8 月を除く毎月第 2 木曜日の 10 時から 12 時は、かまどの火焚きを行っています。



◇活動内容

目 的：屋敷林東山の散策路整備

作業日：第 3 火曜日・最終 金曜日

メンバー：当サークル会員 26 人、その他 10 人、計 36 人

※作業は、足場も自然のままで不安定であり、竹林の間伐も共同作業となり、安全面には十分注意しながら行っています。(作業前ミーティング、準備体操、ヘルメットの着用など)



安全第 1! ミーティング



タケノコ堀も行いました



間伐した竹は整備にも使います



散策路の整備は、竹林を整備し、階段を整え、伐採した竹を使って、竹垣を作ります。

■2019 年～ トロコの森21号地の保全活動

里山保全と併せて、有機(肥料)無農薬栽培を指向している山田ファームで使う落ち葉堆肥の確保も可能な場所として、2019 年1月に「トロコの森ふるさと基金」の里山部会より「トロコの森21号地」の保全活動の委嘱を受け活動を開始しました。

トロコの森21号地の紹介

21号地はトロコにより2013年に取得され、面積は 3,968.44 m²あります。

狭山丘陵いきものふれあいの里スポット3に含まれ、所沢市の「三ヶ島二丁目里山保全地域」に指定されています。

隣接する20号地、31号地と合わせるとこれまでで最大面積のトロコの森となります。

管理方針としては、「クヌギ、コナラなどの落葉広葉樹を主体とする明るい雑木林をつくり、希少種の保全・育成につとめる」として、常緑樹、蔓性植物の除伐を行い、定期的な下草刈りを行っています。(基金では現在までにトロコの森52号地まで取得しています)



◇活動内容

目 的：管理方針にもとずき午前10時から12時まで作業を行い、冬季は落ち葉掃きを行う。

(落ち葉は良質な落ち葉たい肥として山田ファームが野菜作りに活用する)

作業日：不定期 2019年度は8回実施 平均参加者数 22名/回 2020年は10回を予定。

参加メンバー：当サークル及び、山田ファームを中心に所沢市民大学生、同 08、一般市民。

※2019 年 11 月 23 日(土)には宮崎駿さんも参加したトロコ収穫祭に 9 名参加し、山田ファームで収穫したさつま芋のスイートポテト、さつま芋蔓の佃煮、大根の浅漬けを提供し好評でした。

又、クロスケの家で毎月開催される「トロコのふるさと基金・里山部会」には、井上副代表が参加し、基金の事務局や他の協力団体との定期的な情報交換やネットワークづくりを行っています。



■2009 年～2013 年 環境保全活動団体との交流

雑木林、湿地、河川の環境保全団体の活動に参加して、環境保全に対する知識を得ると共に、各団体の運営を学び、交流することでサークル活動の質と活動領域の拡大を目的として取り組みました。

※各団体の活動方針と企画＆運営内容等、多くのことを学ぶことが出来ました。

◇早稲田大学湿地保全活動 WAVOC (学生のボランティア活動)

横山農園の保全活動仲間の市民大学の大堀先生及び、地域の自然サークルの早稲田大学内の保全活動の相互活動支援の一環で活動に参加しました。

※作業内容は、葦の刈り払い、竹林整備、外来植物の除去、生物生息調査、湿地散策等

※オオムラサキ蝶の幼虫生息調査と言う貴重な体験もしました。



・2013年で活動を卒業しました。

◇砂川流域ネットワーク活動

15 期企画委員及び、WG メンバーが会員として活動していた為、参加しました。

※作業内容は、砂川掘りの清掃、川岸の整備、植物調査、散策など



・2013年で活動を卒業しました。

◇おおたかの森トラスト活動

15 期企画委員及び、WG のメンバーが「さんさん会」の役員として開催したイベントに参加しました。

※作業内容は、枯れ木処理、外来植物除去等



・2012年で活動を卒業しました。

■その他の活動スナップ＆関連情報

■2010年～2011年 狭山丘陵いきものふれあいの里センターでの活動展示

2010年と2011年に「ところざわ倶楽部の活動」として「狭山丘陵いきものふれあいの里センター」との共催で「ところざわ倶楽部ウィーク」を開催し、ウォークラリーや活動展示等を実施しました。当サークルも企画運営と併せて、活動展示に出展しました。



■2013年 第1回 狭山丘陵シンポジウムを聴講

狭山丘陵にまたがる東京都、入間市、所沢市の共同で、狭山丘陵の自然保護、活性化等をテーマに開催され、鬼頭先生の基調講演と corot の峯岸さん、トコ関係者等による活動紹介とパネル討論会も行われましたので参加しました。

東京都の取り組みは、埼玉県・所沢市とは資金面も大規模な保全団体に委託しての保全活動等、比較にはなりませんが、関係行政及び、団体が連携しての狭山丘陵の保全・活性化活動には大いに期待出来そうでした。



■2016年 石坂産業「くぬぎの森環境塾の受講」研修会の開催（地球環境に学ぶと共催）

環境に優しい産廃処理及び、地権者から委託された雑木林の保全・再生活動の講義と現地の見学を行いました。

ダイオキシン問題で事業が成り立たない状態から現在では世界的にも評価されている石坂産業の環境への取り組みは素晴らしい。又、地域住民との共生のシンボルでもある雑木林の保全活動は、多くの地権者から管理を委託され、生物・植物の専門家も交えて計画的に保全されていました。但し、一寸手を入れ過ぎで人工的な雑木林となっていると感じました。



■2017 年 伊東農園での「新緑を愛でる会」を開催

伊東農園での最初の落ち葉掃き体験会に初参加の方々と、新緑の季節に招待して、雑木林の散策と食事＆懇談会で慰労すると共に、手入れされた里山の素晴らしさを知って貰い、これからも活動への協力をお願いしました。



※当日は、渡部の案内で多聞院の牡丹を鑑賞してから、雑木林の散策＆昼食、最後に製茶工場の見学を行いました。



■2017 年 「武蔵野の落ち葉堆肥農法」が「日本農業遺産」に認定されました。

所沢市を含む「武蔵野の落ち葉堆肥農法」は、2017 年3月に未来に残すべき農法として「日本農業遺産」に認定されました。三芳町の伊東農園は、認定推進活動の中心的役割を担って来ました。

※陽子ファーム、伊東農園が落ち葉堆肥農法実践農家の代表として認定式に参列されました。

又、両農園から、認定には皆さんの様な市民ボランティアの力が大きかったと感謝されました。

※第2 回「農」里山シンポジウムを三芳町で開催した後、三芳町として「世界農業遺産の認定」に向けて活動してきました。残念ながら「世界農業遺産」の認定には至りませんでしたが、「日本農業遺産」の認定に繋がりました。

(三芳町以外の所沢市、狭山市などは、認定促進活動には消極的でした)...



※認定後の報告会にも参加しました。

日本農業遺産

Japanese Nationally Important Agricultural Heritage Systems

■2017 年 ドキュメンタリー映画「武蔵野」が完成、上映されました。

国木田独歩の『武蔵野』に描かれた武蔵野の雑木林の四季の美しさと、江戸時代からの循環農業の営みが続く奇跡を後世に伝え継ぎたいとドキュメンタリー映画監督の原村政樹さんが、3年をかけて製作に取り組んだ映画『武蔵野』が2017 年 11 月に完成し上映されました。

(三芳町の伊東さん、所沢市の横山さんも出演)

※原村政樹監督が伊東農園の落ち葉掃き体験会にお見えになり、映画製作への思いと私たち市民ボランティアによる雑木林の保全活動に対する重要性について挨拶されました。



5-2. 所沢の農業活性化活動

所沢の農業活性化活動の課題と取り組み ～所沢にスーパーアグリパークを/地産地消の促進～

所沢市は、高品質な露地野菜の一大産地ですが、農業には経済面、後継者、相続税問題等課題も多くあります。

安定的で持続的な農業経営のためには、より付加価値の高い農産物生産と販売戦略が必要です。

また、消費者は、安全で安心できる農産物を求めており、更に環境に配慮した農業が期待されています。

私たちは、所沢市民、消費者として地域の農業を活性化し、安全で安心できる美味しい農産物の生産・流通を応援するため、「地産地消の促進活動」「所沢市/東京農工大学連携協定プロジェクトの応援」等に取り組んでいます。



三富新田の地割風景

活動 \ 年度	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
所沢の農業活性化活動											
農業研修	→	→									
農業後継者の支援		→	→	→	→	→	→	→			
三富研究会		→	→	→	→						
ところ産食 PJT 支援					→	→	→	→	→	→	→
所沢市と東京農工大学包括連携協定 PJT の支援					→	→	→	→	→	→	→
(市民大学ファーム活動)						→	→	→	→	→	→
(山田ファーム活動)									→	→	→
研修会開催、参加	1回	2回	0回	1回	0回	0回	3回	1回	3回	2回	0回

■2009年～2010年 農業研修

農業活性化への取り組みに当たり、農業への理解を深める為の研修を企画・実行しました。

- ◇農家を訪問して圃場見学や意見交換などを行いました。(城 陽子ファーム、下富 関谷農園、本郷 田中農園、中富 長谷川農園、狭山市 中田農園、狭山ヶ丘 仲農園)
- ◇実際に農作業を体験する為、サークル会員の家庭菜園(中富ファーム)で種蒔きから収穫作業までの「プチ農業体験会」を行いました。
- ◇都築、木島の2名は、所沢市の農家支援プロジェクト等で農家に入り込み農作業に従事しました。



■2009 年～2013 年 農業後継者の支援

16 期の日本農業講座 GW で付き合いを始めた農家後継者の活動支援をサークルでも継続しました。

◇下富 関谷農園の自然農法、体験農場への取り組み等の支援

◇山口 峯岸農園の古民家付き農園 corot の立ち上げ、都会人の農への親しむイベント開催等の支援。

◇所沢市の若手農家ワークショップに参加。(峯岸さんがコーディネータを務め、若手農業者がお互いの農業経営などについて意見交換を行い、農業の自立化、活性化に繋げる会)

＜峯岸農園の支援＞

峯岸さんが計画していた「古民家付き農園 corot 構想」に共感し、人手が無い2009年から立ち上げまでの支援活動をして来ました。

◇古民家及び、貸し農園の整備(蔵の片付け、農具置き小屋づくり、畑・竹林の整備等)

◇農園会員の活動サポート(農作業補助、昼食準備、バーベキュー準備、焼き手等)

◇corot 主催のイベント「所沢アートリエ」「餅つき大会」などの手伝い。

◇新所沢 UR 入り口でのマルシェの手伝い(TENT 張り、売り子等)

◇椿峰の自治会からの要請による地元野菜直売所(野菜屋コロッツ)の立ち上げ支援(野菜供給農家の紹介、売り子など)



2013年頃には corot の運営も軌道に乗り、社員も充分確保出来る様になった為、実務的な支援活動は卒業しました。

※corot 代表の峯岸さんは、現在は、多方面に活躍の場も広がり、地産地消促進団体の「ところ産食プロジェクト」の事務局長、サブリーダーも務めています。

蔵の整理(corot 事務所)



貸し農園会員のサポート



椿峰の野菜屋コロッツ立ち上げ



イベント支援: 所沢アートリエ



イベント支援: 新所沢マルシェ



■2010 年～2013 年 「三富研究会」への取り組み

16 期生の WG 活動テーマでサークルの農業活性化活動のテーマでもあった「所沢にスーパーアグリパークを」への取り組みは、既活動団体の見学や所沢市周辺での展開計画情報の収集などを行ってきましたが具体的な取り組みの糸口は見出せない中、2011 年に立ち上げた「三富アライアンス」のメンバーに国内 No.1 の総合建設コンサルタント会社の日本工営を事務局として加えた「三富研究会」を発足させ、農業経営の効率化、農産物のブランディング、里山の保全・活用、アグリポータルによる農産物の流通・販売促進の WG 研究が始まり、具体的な取り組みが始まりました。



三富研究会

構成員:三富江戸農法の会／東京大学＝鬼頭秀一／東京国際大学＝堀内一／早稲田大学＝大堀聰／日本工営(株)／富士通(株)／イーサポートリンク(株)／生活クラブ生協所沢支部／ところざわ倶楽部ほか

活動内容:三富地域の農法・環境等に関心を持ち、農業、流通、国際交流、情報管理等の専門的知見を持った個人・団体・企業で構成。毎月1回程度の定例研究会を開き、三富地域の農業振興、自然環境保全に向けて、三富江戸農法の定義やブランディング、農産物の直販・流通管理、都市農村交流、農法の海外普及等について研究する。その成果を三富アライアンス NPO 準備会に提供すると共に、協働して実践に当たる。

↑ 支援・連携 ↓

事業主体:三富アライアンス NPO 準備会

プロデューサー：清水仁一(ところざわ倶楽部)

・三富の人と農を生かし、自然を保全し、都市と農村を結ぶ活動

① 人と農を生かし、自然を保全する活動

・江戸野菜栽培と種の採取

・循環型農業と平地林利用に向けた落ち葉掃き大会

② 都市と農村を結ぶ活動

・体験農業の実施(植え付け、草取り、収穫)

・平地林自然観察会(山野草観察、植物採集、昆虫採集)

・三富江戸野菜のブランディングを目指す広報・販売パイロット事業

③ 情報の共有と発信

・三富江戸農法とその環境保全能力に関するシンポジウム

・三富江戸農法の世界展開のための国際交流(農家派遣)

三富江戸農法の会(横山農園)
(平地林地権者)
地域の活動団体

← 協働 →



↑ 参加・協力 ↓

三富サポーターズクラブ、生活クラブ
生協所沢支部、ところざわ倶楽部

↑ 支援 ↓

三富地域農業振興協議会(関係市・町、JA
いるま野、埼玉県川越農林振興センター)

一流企業の参加及び、専門家も含めた高度な活動で、当サークルからも色々な提案も行い勉強になりましたが、2013 年で三富アライアンス活動を卒業した為、残念乍ら継続出来ませんでした。

※卒業後は、サークル単独での「所沢にスーパーアグリパークを」の活動継続は困難と判断し、主活動テーマを「地産地消の促進」に転換して活動することにしました。

■2013年～ ところ産食プロジェクトの支援

所沢市主催の「農・工・商連携のためのきっかけづくり交流会」を起点に生まれた所沢市の地産地消促進活動団体「ところ産食プロジェクト」の活動方針に賛同し、サークルの地産地消の促進活動の一環としてプロジェクトの支援に取り組む事にしました。

※以前からの繋がりがある corot の峯岸代表がサブリーダーに就任したことも支援活動取り組みへの大きな要因でもありました。



具体的な支援内容としては

◇プロジェクトへと農家の繋ぎ役

- ・下富関谷農園の圃場見学＆落ち葉掃き体験会をプロジェクトと共催しました。
- ・三富ライフファームさんとの交流会で依頼され、峯岸さんとの顔合わせを設定し、取引に繋がった。

◇交流パーティーへの参加と意見交換

- ・第1回には淵野先生、稲村、松澤が参加、第2回には清水と米山が参加しました。

◇加盟店の応援…会員店で食事会やサークル定例会等で利用して応援する。

- ・ナチュール、シータミュー、いちあん、麦兵衛、増田屋など 12 店舗以上利用

◇公開講演会の開催でプロジェクトを宣伝する。

- ・リーダーの高橋さん、サブリーダーの吉田さんと息子さんの公開講演会を開催しました。

直接的な支援は、難しいが上記のような活動を勧め作ら「プロジェクトと消費者をつなぐ部分」での役割を果たす活動を強化していきたい。



◇地産地消促進の為に公開講演会を開催（ところ産食プロジェクトの宣伝も兼ねて）

テーマ：ところ産食プロジェクトの活動成果と今後の方向性
講師：ところ産食プロジェクト 高橋リーダー（エミールの代表）



テーマ：都市近郊農業の現状と課題
講師：所沢市南永井 吉田農場 代表吉田昌男氏



テーマ：農業後継者の課題
講師：所沢市南永井吉田農場 後継者吉田明宏氏



■2013 年～ 所沢市と東京農工大学包括連携協定プロジェクトの支援

2013 年に締結した所沢市と東京農工大学の包括連携協定(下記)に基づく東京農工大学が取り組むプロジェクトに対してサークルとして支援を行うことにしました。

所沢市の農業振興及び環境に配慮したまちづくりに関連する領域において、所沢市の農業資源・環境を甲の教育研究のフィールドとして活用するとともに、東京農工大学が所沢市の行政活動に活用するため教育研究を実施することにより、地域リーダー及びコーディネータの育成と地域社会の発展に寄与することを目的に、包括連携協定を締結しました。(淵野先生は大学側との連絡担当)

◇2014 年～ 城地区に展開した「里芋実証園プロジェクト」の支援活動

大学の作業が週末主体となるので、平日の水遣りや雑草取り及び、人手が必要な種芋の植え付けや収穫及び、里芋の出来栄評価等の手伝いをするところから始めることにしました。



作業前のミーティング



里芋の掘り出し



里芋の計量調査

◇2016 年～ 北中の養蚕農家(小暮農園)の支援：所沢市で残り少ない養蚕業の継承支援



回転簇の消毒と組み立て



餌の桑の木の刈り取り



餌やり(夜中にも行います)

◇2018 年～ 三富ライフファームとの交流

東京農工大学の里芋実証園活動が先生の都合などで運営が困難となり、実際の栽培作業を生活クラブ生協埼玉傘下の「三富ライフファーム」に委託することになり、支援の在り方等について意見交換会を行い交流が始まりました。・・・生活クラブ生協とは、下富の平地林保全活動で共同活動の経験有。

- ① 支援活動・・・里芋の出荷作業手伝い(ひげ取り、箱詰め作業など)
- ② 交流内容・・・市民大学ファームの収穫祭にゲスト招待、どんぐり村祭りへの出店(里芋販売等)、山宇農園の圃場見学、中原の関連事業で山宇農園でソーラーシェアリング展開など



里芋出荷作業手伝い



どんぐり村祭りに出店



山宇農園の圃場見学

■その他の活動スナップ & 関連情報

■2014 年～市民大学ファーム & 2017 年～山田ファーム活動

主たる活動目的は、野菜作りを通しての「健康づくりと親睦」ですが、「農のあるまちづくり」「農業の活性化」の一環として「休耕地の有効活用」及び、「市民の農に親しむ場づくり」を目指しています。両ファーム共に、地元住民の会員が約半数となっており、市民の農に対する興味は非常に大きく、農業活性化活動としての位置づけが大きくなって来ています。

※両ファームの活動内容は、「健康づくりと親睦活動」の項を参照。

■2013 特別会員に東京農工大学の淵野先生をお迎えしました。

18 期、20 期会員（稲村、中原、米山）が主体となって市民大学の「日本の農業講座」担当の東京農工大学淵野名誉教授をサークルの特別会員としてお迎えし、先生の知見と人脈等により、活動の質の向上と領域の拡大に繋がりました。

※2012年の corot での忘年会で淵野先生及び、所沢市の大舘副市長をお迎えして懇談会を実施



■2018 年 種子法勉強会の開催

食の安全とタネの話をテーマに、元農林水産大臣山田正彦氏を講師に迎えて講演会を開催しました。（食を通して所沢を考える会と共催）



■2015 年 柳瀬公民館主催の「麦まきから食卓まで」イベントを手伝いました。

柳瀬地区の小学校児童40 人の農業体験（麦まき～麦刈り～脱穀～うどん作り& 食す）の手伝いをしました。お礼に麦の種を頂き、市民大学ファームで育てて地這キュウリの床敷きに使いました。



5-3. 健康づくりと親睦活動

健康づくりと親睦活動の課題と取り組み

～健康づくりと学びの継続～

セカンドライフを充実させるためには、
何よりも健康であること、
そして一緒に活動する仲間が必要です。

私たちは、
いつまでも健康で、楽しみながら、
「学び」「地域に貢献」することで
充実したセカンドライフを！
を合言葉に健康を維持し、仲間との親睦を図りながら
諸活動に取り組んでいます。



野菜作りの仲間たち

活動 \ 年度	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
健康づくりと親睦活動											
ハイキング、花見散策	2回	4回	3回	3回	1回	1回	2回	1回	2回	2回	2回
りんご農家ボランティア活動											→
市民大学ファーム活動											→
山田ファーム活動											→
学びの継続											→



花見散策



野菜づくり



懇親会



学びの継続

■2009 年～ ハイキング & 花見散策 セカンドライフを充実させる為には、何よりも健康であること、そして一緒に活動する仲間が必要です。 この為、健康づくりと親睦を兼ねたハイキングや四季折々の花見散策、食事会などを楽しんで来ました。			
2009/4 狭山丘陵	2009/6 昭和記念公園	2010/2 吉野梅郷	2010/3 清瀬かたくり
			
2010/4 砂川堀	2010/12 奥多摩むかし道	2011/4 多磨御陵・森林科学園	2011/6 北山公園・八国山
			
2011/12 御岳神社・溪谷	2012/6 松戸本土寺	2012/6 湯の丸高原	2012/12 鎌倉アルプス
			
2013/3 山梨扇山	2014/3 多磨霊園・野川	2015/3 府中郷土の森・梅	2015/6 北山公園・荒幡富士
	現地に到着早々に大雨となり写真無し 休憩所で弁当を食べて帰りました。		
2016/10 高麗神社・巾着田	2017/3 清瀬カクリ、金山公園	2017/6 御岳レゾナンス	2018/4 野山北公園桜
			
2018/11 高尾山	2019/5 寺坂棚田・羊山公園	019/11 多峯主山ハイキング	※ハイキング・花見散策は「悠遊くらぶ」と称して山歩きは後藤会員、その他は殆ど渡部会員の企画で楽しむことができました。 ご苦労様でした！
			

■2014 年～ りんご農家ボランティア&観光

サークル会員の高校同級生である長野県高山村のりんごとぶどう生産農家の宮川農園から、購入したりんごが大変美味しいので、2014 年の春にお礼とりんご栽培の勉強を兼ねて作業のお手伝いを始めました。

宮川宅に宿泊して 2 泊 3 日の日程で、春の「摘花・摘果」、秋の「収穫、葉取り&玉回し」作業を手伝い、帰路に近隣を観光するイベントとして参加者にも好評で、宮川農園からも喜ばれています。

※参加者は、ところざわ倶楽部会員、市民大学ファームの会員にも呼び掛けし、毎回 6 名～17 名程度の参加となっています。



摘花(摘果)作業



ぶどうの樹の藁巻き(冬支度)

葉取り・玉回し作業



勉強会も兼ねた休憩時の懇談

緊張した収穫作業



お世話になった宮川ご夫妻



授粉用マメコバチの巣



6 年間でりんごの樹も大きく育ちました！



■作業の後のお楽しみ！ 温泉でゆったりし、信州蕎麦を食し、宮川宅での懇親会



■観光：色々な場所を楽しみ、名物を食しました。 高山村の新緑と紅葉は素晴らしい！

2014 年	春は諏訪・蓼科、小布施観光、秋の志賀高原観光は雪で中止		
2015 年春	蔵の街須坂市観光 志賀高原・鬼押し出し観光		
秋	米子大瀑布、戸隠高原観光		
2016 年春	上田城、真田丸展示館観光		
秋	黒姫高原観光		
2017 年春	須坂市の「世界の民俗人形博物館」 安曇野観光		
秋	活動中止 (宮川さんご母堂様逝去による)		
2018 年春	小布施の「岩松院」と「北斎館」		
秋	須坂市「田中本家博物館」 小布施散策		
2019 年春	上田市の戦没画学生慰霊美術館 「無言館」		
秋	長野県なかの市「中山晋平記念館」 「高野辰之記念館」観光		
高山村の 観光名所 ・雷滝 ・八滝 ・高井橋			

■2014 年～ 市民大学ファーム活動

2013 年に締結した所沢市と東京農工大学の包括連携協定の一環である「里芋実証園プロジェクト」を支援する中で、隣接する休耕地 300 坪の提供を受けて「市民大学ファームの会」を設立。

2020 年現在の会員数は30名。(内、地元住民会員14名)

◇活動方針・思い

- ① 有機無農薬栽培を楽しむ。
- ② 会員相互の親睦と地域との交流。
(地域との交流は、農家さんとの交流と地域の文化祭及び、福祉祭りへの出展など)
- ③ 休耕地の活用による「市民への農業体験の場づくり」のモデルケースを目指す。
(サークルメンバー以外の地域住民会員が約50%を占める)

◇会費は、入会金 3000 円(農具類の購入に引き当て)、年会費 3000 円(種子購入などに引き当て)

◇作業は、日曜日、木曜日の9:00～11:00とし、日常の運営は、代表、副代表、アドバイザー及び、運営委員の構成による「運営チーム」を中心に、農事計画と作業管理を行っている。



◇年間イベント

月	イベント	備考
1/中旬	仕事始め	
1/下旬	総会 & 懇親会	例年第 4 木曜日に開催、 場所:東町 10-17 北田ビル「シータ・ミュー」
1/下旬	農事計画検討会	農事スケジュールと作付け品などの年間計画の策定と共有
3/下旬	豊穣祈願 & 花見	毎年の最初の作付時(ジャガイモの作付時頃)に花見を兼ねて実施
6/中旬	夏の収穫デー	ジャガイモ、玉葱など。 有料での収穫体験会開催も計画する。
7/初旬	夏の収穫祭	陽子ファームを借用して実施予定。
11/中旬	秋の収穫デー	さつまいも、里芋等。有料収穫体験会開催、イベントでの販売も計画する。
11/下旬	秋の収穫祭	陽子ファームを借用して実施予定。

◇活動の成長

		2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
会員数(地域会員)		14 (2)	19 (3)	25 (7)	27 (8)	27 (8)	30 (12)	29 (14)
作付け・収穫産物		28 種類	42 種類	45 種類	53 種類	53 種類	49 種類	
運営 方式	リーダーシップ型	作業リーダー & コアメンバー主導						
	全員参加型	作業運営チーム制導入						
地域 との 交流	農家の落ち葉掃き手伝い							
	柳瀬地区文化祭に出展							
	やなせ福祉まつりに出展							

※農家の落ち葉掃き手伝い(ファームでお世話になっている城の陽子ファーム、三芳町の伊東農園)

※柳瀬地区文化祭(11月開催。ファームの活動紹介と会員勧誘、子どものどんぐりトロづくり体験会)

※やなせ福祉まつり(3月開催。市民大学柳瀬地区 OB 会と共同出展、出展内容は文化祭と同様)

◇活動毎に活動スナップを添えた「作業日誌」を発行/配信して、活動記録と併せて各家庭での話題づくりにも活用しています。

<活動のスナップ>

総会 & 食事会



年度の作付け検討会



豊穰祈願



農作業 & 収穫 子ども会員もいます



楽しい休憩 & 懇談



苗床も作りました



シイタケ栽培にも取り組みました



柳瀬地区文化祭 & やなせ福祉まつりへの出展



夏と秋の収穫祭とゲストの方々



■2017年～ 山田ファーム活動

山田ファームは淵野先生のご指導のもと、所沢市民大学 0B 有志と障害者の自立を支援する NPO 法人ワーカーズコープとが共同で 2017 年に立ち上げた有機無農薬栽培を基本とする農場です。場所は山口地区の 463 号線バイパス「梨の木戸」交差点の近くにあり、広さは第 1 農場・第 2 農場合わせて 400 坪程あります。

◇活動目的は

- ・農園生活を通して会員相互の健康づくりと親睦を図るとともに、収穫体験など各種のイベントを通して地域に交流の場を提供していくこと
- ・障害者など困難を抱えている人との共同作業を通してお互いの親睦を図り、就労への自立を支援していくことです。

◇会のメンバーは、市民大学の 0B が 22 名、地域の方々が 10 名及び、淵野先生と NPO ワーカーズコープを合わせて 33 名+1 団体となっています。

◇会費は入会金 1000 円(団体 5000 円)、年会費 2000 円(団体 10000 円)。

◇日常活動は、「農作業は楽しく、収穫は平等に」をモットーに、毎週水曜日と土曜日の午前中 2 時間を目途として 40 種類以上の野菜作りに励んでいます。

イベントとしては、夏と秋の収穫祭でメンバー同士の親睦を図っているほか、近くの保育園児を対象にした「ジャガイモの植え付け・収穫体験」や「サツマイモの収穫体験」も行っています。



◇2019 年からは「トトロの森 21 号地」での里山保全活動にも参加して、落ち葉堆肥作りを行うことにより自然保護と野菜作りの両立を図る、いわゆる循環型農業への試みも始めています。

◇メンバー有志で、サークル主催の陽子ファーム、伊東農園の落ち葉掃きにも毎年参加しています。
(さつま芋の苗は、伊東農園から提供して頂いています)



■2009 年～ 学びの継続(講演会及び、出前講座の開催、各種研修会への参加など)			
年度	内容	主催/関係団体	備考
2009 年	出前講座(みどりの保全計画)	所沢すみどり自然課	開催
	出前講座(三富地域の農業活性化)	埼玉県農林振興センター	開催
	いきものふれあいの里での活動展示会	ところざわ倶楽部	出展
	景観市民会議(市民 100 人会議)	所沢市都市計画課	参加
	砂川流域ネットワーク 10 周年記念フォーラム	砂川流域ネットワーク	参加
2010 年	所沢市農業振興課との農政懇談会	所沢市農業振興課	開催
	所沢市農業委員会との農政懇談会	所沢市農業委員会	開催
	所沢市「景観まちづくりフォーラム」	所沢市都市計画課	参加
	第 1 回 「農」と里山シンポジウム	三富アライアンス	開催
2011 年	所沢すみどりの計画説明会	所沢すみどり自然課	参加
	所沢市景観計画説明会	所沢すみどり自然課	参加
	いきものふれあいの里での活動展示会	ところざわ倶楽部	出展
2012 年	第2回 「農」と里山シンポジウム	三富アライアンス	開催
	シンポジウム(上富のこれからを考える)	三芳町	参加
	出前講座(地産地消促進の取り組み) & 懇談会	所沢市農業振興課	開催
2013 年	第3回 「農」と里山シンポジウム	三富アライアンス	開催
	景観市民活動フォーラム(新所沢 UR)	景観市民活動クラブ	開催
	みどりのパートナー保全研修会	所沢すみどり自然課	参加
	第 1 回狭山丘陵シンポジウム	狭山丘陵パートナーズ	参加
	境山野緑地(独歩の森)保全活動の見学 & 懇談会	武蔵野の森を育てる会	開催
2014 年	みどりのサポーターズクラブ「緑の再生研修会」	埼玉県みどり自然課	参加
	三富新田世界農業遺産シンポジウム	世界農業遺産推進協議会	参加
	みどりのサポーターズクラブ「緑を育てる研修会」	埼玉県みどり自然課	参加
2015 年	講演会(都市近郊農業の現状と課題)	吉田農場 吉田代表	開催
	埼玉県緑の再生活動研修会	埼玉県みどり自然課	参加
	出前講座(地産地消の取り組み-2)	所沢市農業振興課	開催
	講演会(corot)※食を通して所沢を考える会と共催	corot 峯岸代表	開催
	講演会(地域ではぐくむ自然～ 住民と農業をつなぐ雑木林	東京農工大千賀裕太郎氏	参加
2016 年	「くぬぎの森環境塾」受講(地球環境に学ぶと共催)	石坂産業	開催
2017 年	出前講座(気象と農業災害)※地球環境に学ぶ共催	埼玉県農林部農業支援課	開催
	講演会(地域特性を活かした営農への挑戦)	吉田農場 吉田明宏氏	開催
	小手指農場クラブ見学 & 意見交換会	小手指農場クラブ	開催
2018 年	講演会(食の安全とタネの話)※食トコと共催	山田正彦氏	開催
	三富ライフファームとの意見交換会 & 山宇農園見学	市大ファーム/三富ライフファーム	開催
	緑の保全支援補助活動報告会	所沢すみどり自然課	参加
2019 年	みどりのパートナー育成講座(中級編)	所沢すみどり自然課	参加
	ハーブの講演樹 & 調理実習(食トコの園田会長)	所沢の自然と農業	開催

5-4. ところざわ倶楽部との連携

所沢市民大学のOB会として、修了生の学びの継続と学びを地域に広める場としての「ところざわ倶楽部」を盛り上げる為、倶楽部への理事派遣及び、各種イベントへの積極的な参加を行って来ました。

◇理事の派遣状況

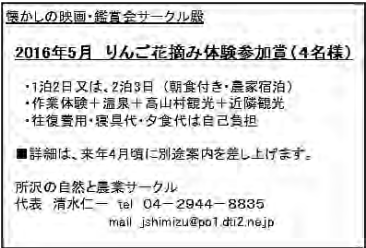
年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
派遣者	清水	清水 後藤	高橋 後藤	高橋 稲村	高橋 稲村 後藤 鴨田	稲村 渡部 鴨田	稲村 渡部 鴨田	稲村 中原	稲村 中原 西郡	中原 西郡 岡崎久	中原 西郡 岡崎久	中原 西郡 岡崎久

※倶楽部の会長経験者：稲村(9期～10期)、副会長経験者：清水(2期～3期)、中原(12期～)

※広報誌広場の編集部員：清水、高橋、後藤、稲村、西郡、中原、松崎、鴨田

※倶楽部の10周年記念誌発刊では、清水、稲村、中原の3名が編集委員として参加しました。

◇サークル活動発表会:幅広い活動を楽しんでいることから発表を要請され対応して来ています。

時 期	2015 年 5 月	2016 年 9 月	2019 年 9 月
備 考	抽選でりんご農家のボランティアで頂いた「りんごジュース」と、「りんご花摘み体験参加賞」を2サークルに進呈しました。 発表者 清水 	市民大学ファームの活動紹介に合わせた里芋の鉢植え展示と終了後の展示品を小分けしたお土産が好評でした。 発表者 中原、清水 	長野のりんご農家ボランティア活動農家から提供されたりんごとぶどうの試食が大好評でした。 発表者 西郡 

◇文化祭/ところざわ倶楽部まつりでの出展及び、活動発表対応も多数行ってきました。

出展者	作品	出展者	作品	発表者	発表内容
大舘	筆ペン画、写真	中原	水墨画、書画	中原	市民大学ファーム活動
中村	筆ペン画、陶芸 他	道江	水墨画、水彩画	清水	サークル活動
影山	写真	清水	水墨画	西郡	サークル活動

◇他サークルとのコラボ活動・相互活動支援も積極的に行い活動の幅を広げながら楽しんで来ています。

サークル名	コラボ活動内容	相互活動支援・参加
地域の自然		落ち葉掃き等の相互支援
食を通して所沢を知る会	講演会の共催	市大ファーム収穫祭、フードバンク活動
地球環境に学ぶ	講演会、研修会の共催	研修バスツアーへの参加、落ち葉掃きへの参加
地域の自然を考える会	倶楽部の芋煮会共催	小手指農場、corotにて

6. 活動のまとめ

(1) 活動の特徴と各テーマ毎の総括

① 活動の特徴

活動方針として「産官学民による協働活動」「地域貢献に繋がる活動」及び「他の環境保全活動団体との交流」等、特徴のある活動を進めて来た結果、活動領域の拡大と幅広い交流が実現出来ました。

又、上部組織の「ところざわ倶楽部」との連携では、多くの理事を派遣すると共に、イベントへの参加や、他サークルとのコラボ活動も積極的に行って来ました。

② 里山の保全活動

2010年に立ち上げた「三富アライアンス活動」により、知識や実作業も修得出来、充実した活動体験でした。

所沢市の「みどりのパートナー活動」による「くぬぎ山・駒が原の森」を拠点とした活動は、実活動に至りませんでしたが、2018 年からの柳瀬荘黄林閣東山散策路の整備活動及び、2019 年からのトトロの森21号地の保全活動等、主体性のある活動に取り組んでいます。

③ 農業活性化活動

2011 年からの「三富研究会」活動はレベルの高い農業活性化の取り組みでしたが「三富アライアンス活動」の卒業により、研究段階で活動を終えたことは大変残念でありました。

農業後継者の支援活動では、特に、峯岸農園の椿峰の野菜直売所や山口の古民家付き貸農園 corot の立ち上げに直接係わることが出来て貴重な体験と達成感を味わうことが出来ました。地産地消促進の取り組みは「ところ産食プロジェクトの支援」と「地産地消促進講演会」の開催等に取り組んできましたが 2015 年以降はやや活動が停滞しています。

2013年に淵野先生を特別会員としてお迎えしてからは、先生の知見と人脈で市民大学ファーム、山田ファームの立ち上げなど活動領域も広がり活動の質も充実して来ています。

④ 健康づくりと親睦活動

サークル立ち上げ当初からハイキングや四季折々の花見散策などを楽しんできましたが、2014 年以降は「りんご農家のボランティア＆観光」「市民大学ファーム・山田ファーム」活動なども始まり増々、充実して来ています。

学びの継続は、多くの会員が明治薬科大の市民講座を受講する等、広範囲に学習し、講演会も数多く開催・聴講して来ました。

(2) サークルの運営

6 名からのスタートから、ほぼ毎年、市民大学修了生を迎え入れ、現在 30 名と大所帯となり運営の難しさもありましたが、長期スパンで見ると15期からの「第1世代」18 期生からの「第 2 世代」23 期生からの「第 3 世代」夫々で、新たな活動領域の拡大と質の向上に転換出来て来ています。

(3) 活動に対する行政や他団体からの評価

サークル創立当初から発信力のある「三富アライアンス」の立ち上げに関わったこと及び、行政との連携を幅広く進めたこと等が評価に繋がり、下記の様な案件にも関わることが出来ました。

◇2009 年 生涯学習推進センター設立記念の研究活動事例冊子に活動が掲載されました。

◇2008 年～2009 年 所沢市「健康ところ21」活動の一環で、保健センターの地域デビューを後押しする為の冊子「定年ジャンプ」の2号～3 号の編集・発刊作業に参加（清水が編集長を務めました）

◇2012 年 所沢市の「生涯学習を進める市民会議」による講座「ところ学のすすめ」の立上げ支援。

◇2012 年～2014 年「生涯学習推進センター運営協議会」に市民活動団体代表として清水が参加。

7.これから(会員の声)

継続的に市民大学修了生が入会し、市民大学修了生以外の方の入会もあり、現在はメンバー30名と大所帯となりました。

活動は創設以来 10 年を超え、母体の高齢化は避けられませんが、今までの経験・実績と新規加入者の新たな知見とを融合させて、これからも「いつまでも健康で、楽しく学び、地域に貢献することで充実したセカンドライフを！」のスローガン通りの活動に取り組んで行きましょう。



“10年のあゆみ”に綴られた“協働のかたち”



所沢市には、狭山丘陵の樹林地帯から平地林に囲まれた三富新田地域、都市開発が進展した市街化区域周辺にも貴重な緑地が広がっている。しかし、近年、農家の高齢化や後継者不足が顕在化し、耕作放棄地や平地林への産業廃棄物投棄等に苦慮する地域も目立っている。

もちろん農林地の維持管理については行政や JA 系統組織等の適切な支援対策を期待したいが、地域に定住し、農林地の多面的な便益を享受してきた

市民を含む多様な主体による協働の枠組みの下に、改めて所沢市民共有の地域資源として見直し、その再生に取り組むことが必要である。

その意味で三富アライアンス活動を引き継ぎ、10 周年を迎えた“所沢の自然と農業サークルのあゆみ”は、貴重な実践記録である。

これからも所沢の自然と農業を視野におさめ“協働の舞台”を演出する役割を期待したい。

特別会員 淵野雄二郎
東京農工大学 農学部 名誉教授



清水 仁一

市民大学
15 期修了

市民大学 15 期の講師、企画委員及び、貴重な仲間と 2 年次の活動でお世話になった農家さん、行政担当者との交流を財産に立ち上げたサークル活動でしたが、あっという間に 10 年超となりました。

毎年加入して来る仲間が何とも新鮮且つ、多様・多才で活動領域もどんどん広がって来ました。

お陰様で落ち葉掃きの開催など良い汗をかきながらの地域貢献と 2014 年からの生まれて初めての野菜づくりやりんご農家のボランティア等、貴重な体験と新たな楽しみも増え、贅沢な活動に参画出来ていることに感謝しています。

今後共、体力と家庭の事情と相談しながら楽しい仲間との懇談や活動を「QOL（クオリティ オブ ライフ）」向上の源として参画して行きたいと思っています。



渡部 昇

市民大学
15 期修了

市民大学 2 年次のテーマが「環境倫理」。“自然と人との共生”“生物多様性”等の知識が十分でないまま、6 人の仲間達と立ち上げたのが「所沢の自然を考える会」でした。

その後、横山農園での実践的循環型農業を知り、落ち葉掃きボランティアを通じて緑（平地林）の保全や落ち葉堆肥の活用による有機農業や生物多様性の大切さを知ることが出来た。

近年、国連サミットにおいて採択された「持続可能な開発目標 SDGs」の取組みの 15 番目には「生態系の保護・回復、森林の持続可能な管理、土地劣化の阻止、生物多様性の損失阻止」とあります。

これこそが我々が学んだ「環境倫理」の原点と云うことを再認識した今日この頃です。



川口 秀子

市民大学
15 期修了

雑木林の手入れから大勢の中での「農と里山シンポジウム」のお手伝いをしたり、仲間とあちこち散策したりと色々な体験をさせて貰い、気が付いたら 10 年以上経っていたという感じです。

人数が少なかった当時は、色々忙しかったですが、市民大学ファーム・秩父学園での野菜づくりやりんご農家のボランティアが始まってからは、ゆっくりとした活動が増えて、体力が落ちてきた私にも楽しみながら参加出来て良かったです。

これからも体力と相談しながら参加させていただきますのでよろしくおねがいします。



松澤 正

市民大学
17 期修了

1975 年から所沢都民となったが、所沢市は都心に近いにもかかわらず、自然が多いことを知った。

市民大学終了後、自然や農業に関心があったので入会させて頂いた。

当時は何も分からず、ただ先輩の後をついて行くだけでしたが、会員の皆さんの温かさにもふれながら様々な行事に参加し、気が付けば 10 年が過ぎた。

この間、落ち葉掃き、市大ファーム、トトロの山・柳瀬荘黄林閣の散策路整備、長野県りんご農家ボランティア等に参加して自然や農業に関わる喜びを感じ後期高齢者となったものの、いつも青春？のような気持ちでいる。



絹川登美江

市民大学
17期修了

平成22年に、市民大学を卒業と同時に、みんなに“絹川さんが農業やるの？”と不思議がられながら入会させて頂き、あっという間にこの10月で丸10年です。入会の頃は、小人数で小回りがききあちこちに出掛けた楽しい思い出がいっぱいあります。その内の一つにコロットによく出向きボランティアをし、手づくりの食事会を楽しみました。今は、大世帯になり後輩の皆様がとても頼もしい限りです。これからのサークルの活動をと問われましたが、私は自然の空気の中に居るのが大好きで、山田ファームに誘われて生まれて初めて鍬を持ち、畑を経験しました。今は楽しくて生き甲斐です。長野のりんご園、トロの森、黄林閣、落ち葉掃きとどれをとっても大好きで楽しんでいます。皆様についていけるよう、迷惑をかけない様、楽しみながらやっていける事を願っています。



佐藤公俊

市民大学
17期修了

何の目的もなくこのサークルに入会、最初に行ったのが枯れ枝拾いのボランティア、なんかなーと云う思いで行っていましたが清水、渡部、松澤その他各氏の献身的な作業態度、琴線に触れるものがありました。小生、元々怠け者、異なった世界と感じていました。

こう云う作業、何度か重ねているうちに心地良い疲労にも小さな喜びを感じるようになりました。

年金と云う有り難い制度を受けている以上少しでも社会にお返しすべきではないか、我々が動くことにより農家、園主の生産向上にささやかではあるが寄与していると思っています。ボランティア活動も大きく掲げている当サークル、小さな社会貢献、小さな自己満足、作業終了後仲間達と交わすビール、良く冷えた日本酒、焼酎のロックこれがいっぱいなんだなー



影山 洋

市民大学
18期修了

18期の2年次の「日本の農業」を選択しました。

当時、米国を含めた TPP 問題が騒がれたが、その条約内容が公開がされず憶測や推測で紙面を賑わせた。出てきた情報を繋げていくと小規模の米作農家や酪農が大打撃を受けるのは明らかと条約の締結には反対の立場でした。

2年次終了後更に知識や議論を深めたいと関連がありそうな当サークルに入りました。

時の経過と共に TPP の熱も冷め、循環型農園のお手伝いや、収穫祭への参加ハイキング 飲み会がまた楽しく、気心の通い合う良い仲間恵まれ、充実した生活を送らせて頂いております

本当に感謝です。



稲村洋二

市民大学
18期修了

私は我々のサークルが落ち葉掃きに参加している三芳町のサツマイモ農家の伊東農園の伊東さんの言葉が忘れられません。

それは“この地域を朝霞のようにしてはならない”との思いで農家を継いで来ているとのことでした。朝霞は急激な都市開発で田畑と林がなくなってしまう都市化してしまった。伊東さんは三富新田の伝統的な農業を代々受け継いでこられ、地域の農業を日本農業遺産にまで高められました。

雑木林を保全し共生していく、このことが環境を守り地域の価値を継承していくことだと思います。サークルの活動として武蔵野の雑木林を未来に残していくことの意義を強く感じています。



中原幹男

市民大学
20期修了

たかだか10余年のうちに、こんなにも多くの活動・地域貢献をこのサークルがやってこれたことは、サークル創世期メンバーのパワーの賜物と感謝致します。市民大学20期修了後に参加し、まさに所沢の自然と農業に実体験としてかかわれたことは、第3の人生の宝となっています。

また、東京農工大学淵野先生、陽子ファームの池田ご夫妻、伊東農園伊東ご夫妻、山宇農園山崎ご夫妻などから農業の実態を教わることができたことに感謝しています。

今後のサークルへの期待としては、新しく入会した会員とともに修了中に研究した課題を共有する機会を是非、作ってほしいということです。

“学びの継続”をサークルで共有することで、会の目指すところも共有できると考えます。



米山光明

市民大学
20期修了

私は2014年の入会で、当時の活動記録を見ると立ち上げから「里山の保全・再生」「所沢の農業の活性化」に幅広く活動され、地域貢献を果たしていました。活動の転換期だったのか、私はそれまでの活動への参加は極限られていました。入会間もなく農業活性化の実践の場として淵野先生の計らいで市民大学ファームの立ち上げがあり、以来、有機無農薬野菜の栽培を楽しみながら健康づくり、親睦を図ることができ貴重な体験をしています。

サークル活動が、生活パターンの一つであり、健康に活かされていますので、今後ともよろしく願いいたします。



井上幸夫

市民大学
21期修了

私は2015年当サークルに入会しました。当会で発足当初から現在まで続いている落ち葉掃きや後半から組織された市民大学ファーム、柳瀬荘、山田ファーム、トトロの森などの活動はいわば一般市民とともに継続的に活動できる組織として誇れるものだと思います。

これこそ当サークルの活動テーマにそったものでもあるし、またところざわ倶楽部が目的とする【学びの先にある地域貢献】の姿ではないかとも思います。

長野県リンゴ農園ボランティアは私の忘れ得ぬ楽しい思い出となりました。



道江義頼

市民大学
21期修了

市民ファームで土に触れながら語り合う。平和だなと思う。気持ちがよい。小学生のころ小遣いほしさに草むしりや茶摘み、種まきしたのを思い出す。間引きの野菜だって新鮮でおいしい。瞬く間に育つ緑野菜、じっくりと待つ根菜類。なんと多種多彩なのだろう。

サークルの皆様のおかげで収穫の喜びを味わえることに感謝。私のリタイア後のテーマは、「ふるさとの自然」。農地は年々少なくなり、従事する家も減少しているが、「所沢の自然と農業」は私の意にかなったサークルであり、居心地のよい居場所である。



松崎 晃

市民大学
22期修了

所沢の農業の歴史的背景は落葉堆肥を利用した循環型であり、当サークルは循環型農業を主題にしている。冬の落葉掃きから堆肥化して畑で使用し、作物を育て収穫するまでのプロセスを市大ファームや山田ファームが実践している。市大ファームはサークル活動で始まったが、山田ファームは発足の経緯からサークルメンバーと外部の方々の活動であり、市大ファームも外部の方々が増えサークル活動色が薄まっている。このような状況で、当サークルがこれらの活動にどの様に関係し、存在を示していけるのかが今後の課題と思う。自然や農業への理解を深めるためのミニ講演会や見学、落葉掃きで実施している体験学習を実施していく事も一つの方法であろう。



西郡 貢

市民大学
22期修了

数年前に自己免疫低下症候群なる難病にかかり、継続治療を行っています。又本年1月末には椎間板ヘルニアにかかり治療中、新型コロナ問題が起こり、自宅療養と自粛を続けていました。気がつけば、ほぼ半年が過ぎ、その間に、太陽の下土にまみれ汗をかき自然の中で活動することが、いかに精神的肉体的に必要であると、感じている昨今です。このような場を提供いただいている当サークルに感謝しています。今後は、時局講演会的な機会を増やして頂けると、肉体的だけでなく知識的にも更に充実する人生を送ることが出来ると考えています。



鴨田孝司

市民大学
16期修了

2016年に、活動していた「公園を楽しむ会」がところざわ倶楽部から止めることになりました。サークルを見渡して、顔見知りもいて、自分も楽しんでいた自然の保全活動やハイキング・花見散策などの活動が活発な「所沢の自然と農業サークル」に加入しました。加入後は、多くの仲間たちと知り合い、期待通り落ち葉掃きやハイキングなどで良い汗をかき、楽しませていただいております。今年は、三芳町の伊東農園の落ち葉掃きの責任者となり、関係者との調整など初めてのことで大変でしたが、無事に終了することができ、サークル活動に多少なりとも寄与できた事に満足しております。



岡崎 久子

市民大学
19期修了

所沢の自然と農業サークルの活動10周年、おめでとうございます！私は市民大学柳瀬地区OB会に参加し、市民大学ファームに体験参加、「所沢の自然と農業」サークルの活動内容に興味を持ち入会へと繋がりました。それまで室内活動が中心だった私に、戸外での活動の楽しさを教えて頂いたと思っています。落ち葉掃きに初めて参加した時には本当に感動しました。今やっているサークル活動は、自分たちの働いたことの成果が目で見えて確認できるという点が大きな魅力だと思います！柳瀬荘東山ボランティア・トトロの森保全活動・宮川農園リンゴ等作業ボランティア・市大ファームでの毎回の収穫物・収穫祭等々すべて遣り甲斐のある活動だと思っています。



穴井二三徳

市民大学
21期修了

当サークルには、21期市民大学2年次で「日本の農業」講座を専攻し、23期市民大学で同講座の企画委員を担当したということもあり2016年10月、23期市民大学の修了をまって加入しました。

このサークルの活動には、里山の保全面では陽子ファーム・伊東農園での落ち葉掃き、柳瀬荘黄林閣の整備、更にはトトロの森21号地での保全活動・落ち葉掃き、農業の活性化面では市民大学ファームと山田ファームでのそれぞれの農業実践活動、また、親睦を兼ねてのリンゴボランティアやハイキングなどと幅広いものがあります。このサークルにここまで多岐にわたる諸活動を織り込んで来られたこれまでのメンバーのご努力には本当に頭の下がる思いです。

ただ、ここまで広範囲に広がった活動をこのサークルで一元的に管理していくのには無理があるのかなとも考えています。加えてこれらの活動は多くの人的資源を要するため、サークル会員だけに限らずそれぞれが会員外のメンバーとともに協働し、かつ、それ自体が自律的に管理運営されているということもあります。

この10年の間にこのサークルの当初の目的がメンバーのご尽力によってそれぞれの活動に具現化され、それぞれが目的に応じて一本立ちしつつあるということでしょうか。そんなことで、このサークル自体の目指す処も当初とは違ってきているのかなと感じています。

この会の当初の目的がそれぞれの活動で具体化されている現在、この会自体は定例会での情報交換や研修、会員相互の親睦をメインとしていくことも一つの方向かなと思う次第です。



中村昌彦

市民大学
23期修了

10周年おめでとうございます。市民大学卒業後何をしようかと思っていました。年末年始の落ち葉掃きがきっかけで所沢の自然と農業サークルに入会しました。まもなくして市大ファームの一員として仲間入りして翌年自宅近くの山田ファームの活動立ち上げに参加しました。

数年前より所沢市民農園に応募して数回当選して畑仕事はしていたので自身の農法を皆さんの作業・植付等大いに参考になりました。

その後トトロの森や柳瀬荘の活動が加わって視野も行動範囲も広くなりました。コロナ騒ぎでここ数ヶ月は外出機会の無い時に農作業に参加出来て嬉しかったです。

これからも当サークルは体を動かし地域に貢献できるようにしたいとおもいます。



大舘 徹

市民大学
23期修了

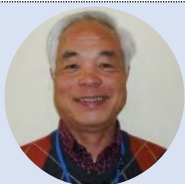
「所沢の自然と農業」活動内容も理解しないまま名前が気に入り入会しました。入会して間もなく近場にファームが立ち上がったので仲間入りさせてもらい大勢の人達と野菜栽培を体験しながら健康づくりも兼ねて楽しんでいます。

長野での果樹園の仕事の手伝いは初めてで貴重な体験させてもらいました。

所沢の養蚕が現在も続けられてて今その手伝いができるなんて郷愁にかられました。

こんな活動ができたのもこのサークルの土台を作ってくれて10年歴代の会長、それを支えてくれた役員の皆様方に感謝してます。

今後益々発展して行く所沢地域での農園や里山が少しでも美しい故郷として残ることを願ってます。



森 敏雄

市民大学
23期修了

当サークルへの入会は23期市民大学で「日本の農業」を受講した流れです。この講座の選択は、20年以上120坪の家庭菜園の経験にも拘わらず、一向に上達せず、特に繰り返し土づくりに失敗したため、ノウハウを学ぶ機会を得るのが目的でした。

「所沢の自然と農業サークル」入会後は様々な体験のなかで、このサークルの凄さを感じさせられました。従って、10周年はすごい一言です。

サークル内の一つ一つが各々しっかりしたリーダーシップで確実に運営発展しています。全体として、いきいきしたサークルの集合体が夫々の方向に展開というイメージです。

これからも、多くの活動に参加し、自分の畑も満足できる収穫を目指して楽しく生活したいと思います。



岡崎 裕

市民大学
23期修了

所沢に住んではいても都心に勤務していたため、自然と接する機会は時々行くハイキング程度でした。

家庭菜園をしているうちに、自然と接する機会が多くなり市民大学で農業グループで農家がおかれている状況について、学ぶことが多くありました。

活動に参加している回数が少ないので、皆さんが積極的に楽しくされているのに圧倒されています。

自然保護の作業を手伝っていると、自然を破壊するような事もしている現代の生活と少しはバランスが、とれるのではないかと、環境を守る事に少しですが手伝えたら良いと思っています。



鯨岡真理

一般

このサークルには、ところざわ倶楽部会員の岡部まさ子さんの紹介で入会しました。

市民大学とは縁のない私ですが、市民大学ファームでの農園活動や、リンゴ農家支援に参加して、みなさんに大変親切にいただき、楽しませていただいています。

今では私にとって、かけがえのない居心地の良い”居場所”となっておりますので、今後ともよろしく願いいたします。」



中島民恵

市民大学
24期修了

私は市民大学24期生です。2年次は「日本の農業」で『地産地消の推進』を、26期の2年次も企画委員として『農業の大切さを次世代に伝えるために』を26期生と一緒に学習させて頂きました。

今年は、年明け早々から新型コロナウイルス感染騒動が起こり、感染しない為の行動も本当に大切ですが、市民大学での学習を基に、もし外国から食物が輸入されなくなり途絶えた時にはどうするかを考えさせられました。

今後も起こり得ることだと思いますので、実践活動と並行して自然と農業が私たちに必然として、広められる活動にも期待しています



大熊和子

市民大学
24期修了

所沢の自然と農業を愛する一人ひとりが築き上げた10年間の歴史が記念誌として完成した事は力強い絆を感じました。私は今までの自分自身を振り返って見た時に、汗をかいて体を使って行動するような事がしたいとこれまで探していたような気がします。そんな時に24期市民大学で農業と出会い、このサークルに入会して少しずつですが一緒に行動することが出来てうれしいです。また、山田ファームで野菜づくりの仲間と土に触れて野菜の成長を楽しむ事も出来て本当に感謝しています。
これからも色々なボランティアに参加して、いい汗を一杯かきたいと思います。



千葉 悟

市民大学
24期修了

ところざわ倶楽部に入って2年目の私が10年誌に寄稿するのは心苦しいのですが、是非とのお誘いを受けましたので柳瀬荘での再開の様子を記します。
薄紫のアジサイと木陰に添う白いドウダミのコントラストが美しい中、令和2年6月16日、3か月ほどコロナ禍で中断していた作業が再開。
19名のメンバーのお互いの健康を確認しつつ、恒例の体操を終え、垣根、除草、竹切り、散策路整備と分かれて作業を始め、昼前に終えた。
久々の汗に皆さん満足げ。
ここばかりでなく今後も体力の続く限り微力を尽くしていきたい。



吉田文枝

市民大学
25期修了

生活クラブ生協での活動をとおして三富の林に出会った。
冬場は毎週のように落ち葉掃きに通い、仲間と共に作業を行い、きれいになっていく林を眺めるのが楽しみだった。
春には手入れをした林の中でキンラン、ギンランなどを見ることができる。近くに緑豊かな環境があることを、とても幸せに思う。
市民大学では多様な講座をたのしみ、2年次は所沢の農業をテーマに学んだ。
その後、ところざわ倶楽部「所沢の自然と農業サークル」に参加し、農作業や落ち葉掃きなど、みなさんと楽しく活動できることに感謝している。



浪間扶美子

市民大学
25期修了

市大ファームでの1年余野菜作りが少しでも出来たら…自分達で作った物なら安心して食べることが出来る。だが、少し遠くて続けられるだろうか？と心配しつつ入会した。
「案ずるより生むが易し」で、先輩達の優しい指導により、昨年は家でキュウリ苗1本から、20数本を収穫した。今年も挑戦しているがどうなるか？近くに住む先輩は天候の様子で送迎して下さり、参加出来る重要な支えだ。
三密に注意しながらの作業だが、何より凄いのは毎回收穫が有ること。
名物の「里芋コロッケ」に初めて挑戦して美味しく頂いたり、何もかもが先輩達のお力添えと感謝しています。



阿部精二

市民大学
26期修了

私が、昨年入会し、今年2年目ですが、10周年の実績をみると、真面目に活動に取り組んで先輩たちに驚きかつ感謝いたします。

また、会員の自由意思を尊重した現在の会の運営のやり方にも満足しています。活動内容については、市民大学ファームでの農業活動が中心でやってきていますが、山歩きの行事も楽しみにしております。

また、長野のリンゴ農園の作業も、今年中止になってその有難みがよく分かりました。やはり、楽しいサークル活動にするには、メリハリとバラエティに富んだ企画が必要不可欠と思います。その点では、雰囲気を変えて皆で楽しむ場としては、大変良かったと思います。是非とも、再開を期待いたします。



佐藤三夫

市民大学
15期修了

“養蚕農家・小暮晴彦様宅へお蚕さんをたずねて”(2020年6月6日)

私にとって、人生忘れられない1日になりました。

東京農工大、淵野先生と山田ファームのみなさんと訪ねました。

小暮晴彦様とご家族の皆さまが笑顔で迎えてくださりうれしく感じました。

回転蓆をつくる作業など、きれいに均一されて大変印象的で、お蚕さんが皆同じような大きさに育っているのは、素晴らしいな~と思いました。

サークル活動20周年の時も是非訪問したいです。



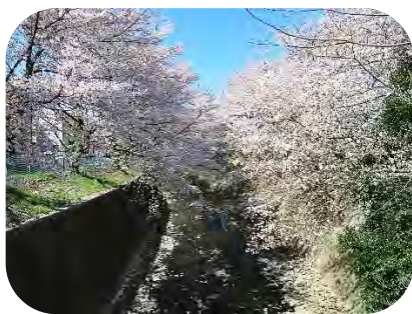
川田良太郎

一般
※市民大学
受講予定

今年3月で 51 年間のサラリーマン生活に終止符を打ち、平日の過ごし方を模索していたところ散歩途中の新所沢公民館でところざわ倶楽部「広場」での柳瀬荘黄林閣の針生さんのレポートを読みこれならお手伝いできそう、ましてや地元所沢でのボランティア活動との事で手を上げました。

私事ですが昭和 21 年 3 月生まれの 74 歳です。所沢には昭和53 年から住んでいます。(途中昭和 55、56 年に新潟に転勤しましたが)

ボランティア活動は、平成 17 年から埼玉森林サポータークラブに入会し土日のほとんどは埼玉県内の森林ボランティア活動に参加してきましたので、何かとお手伝い出来ると思いますので、宜しくお願い致します。



東川の桜



金仙寺の枝垂桜



航空記念公園の桜のトンネル

—編集後記—

新型コロナ感染症と言う未曾有の災害に見舞われ、外出の自主規制から、緊急事態宣言の発令と日常が止まり私たちの生活も一変した中で当サークル活動の10周年記念誌(最終的には“活動のあゆみ”に名称変更)の作成に取り組みました。

作成に当たりインターネットで「周記念誌の作り方」を見て勉強し、文章主体の冊子は誰も読んでくれないので兎も角写真などを多く使ったビジュアル系として関係者が「こんなことがあったね」「私も参加した」などと、楽しい思い出を蘇らせてくれるような内容とすることを心掛けて編集を進めました。

今まで蓄積した書類と写真から忠実に時系列に活動内容を整理し、苦労話は余り入れずに楽しかったこと、達成感などを中心に編集しましたが、途中途中で思い出に浸りながらよく頑張ったなど、そして毎年新しいメンバーが加入する中で新旧メンバーが一体となって本当に素晴らしい仲間の集団だと再確認することが出来ました。

公共施設も使えず会合も儘ならず悶々としながら、サークル活動が10年以上普通に出来て来たことを幸せと感じながらの編集作業でしたが「小規模テレワーク」での作業となり、関係者の方々にはご不便とお手数をおかけしました。

最後に、本誌が「サークルの文化を共有し、これからの活動にも継承する」ことの一助になり、益々のサークルの発展に繋がることを期待しております。

発行 2020 年 6 月吉日

発行責任者：稲村洋二 編集責任者：清水仁一

<編集委員>

渡部 昇 松澤 正 中原幹男 米山光明 井上幸夫 西郡 貢 穴井二三徳 岡崎久子

